

高法理由書

第三卷

寫本
 高法理由書
 第七百十
 第十二編
 二冊
 內

第 五	第 五架	第 五號
--------	---------	---------

司法省
 第九二號
 寄贈圖書文庫

XB400
S 24
1 C



第二編 海商

第一章 船舶

第八百二十四條 日本人民ノ所有ニ專屬シ又
ハ日本ニ營業所ヲ有シ且日本ノ裁判權ニ服從
スル會社其他ノ無形人ノ所有ニ專屬スル商船
其他ノ海船ハ日本ノ船舶ニシテ日本ノ國旗ヲ
掲クルノ權利ヲ有ス

凡ソ海上法ハ汎ク之ヲ論スレハ幾多ノ部類
ニ分ル此各部類ニ於ケル其内部ノ差異ニ至
テハ海上法ヲ以テ論スヘキ事ニ俾ル立法ニ
於テ不問ニ置クヲ得ス而シテ此部類ノ一ハ
萬國公法ニニハ行政即チ警察上ノ立法ニ三

XB400
S 24
1 C

ハ民法ニ屬ス萬國海上法即チ佛語ニ所謂ル
海上交際法ナルモノハ(ラド、チプロマキ)海上船
舶及海上交通ニ付各國ノ間ニ通用スハキ法
律上ノ原則ニシテ萬國公法上ノ關係ヲ有ス
ル各國政府ニ於テ同シク遵奉スヘキモノヲ
包有ス然レド該法ニ屬スル事件中或ハ一國
ノ法律ヲ以テ之ヲ定ムルモノナシトセス例
ヘハ捕獲法及封港法ノ如キ總テ萬國海上文
通ニ係ル實際ノ小事件是レナリ此ニ屬スル
モノハ殊ニ軍艦商船ノ區別海上交通ノ自由
海賊等ニ係ル萬國海上警察及海上儀式等ニ
シテ此外海戰法即チ局外中立封港及戰時禁

制物等ニ係ル原則亦チ此ニ算ス海上行政即
チ警察法ナルモノハ其國船舶ノ其行政官廳
ニ對シ遵守スヘキ規準及規則ニ係リ此規則
タル專ラ商船ニ関スルモノナリ何トナレハ
軍艦ハ軍隊ト同シク特別ノ行政ニ屬シ普通
行政ノ外ニ在レハナリ故ニ右規則ニ屬スル
モノハ管海官衙管港官衙ノ設立及其事務船
舶及港上警察其他船舶製造水先船員ノ警察
ニ對スル關係即チ海員教育并試驗等是レナ
リ海上民法ハ船舶及航海ノ事ニ付各個人
ノ間ニ於テ遵守スヘキ原則ニシテ普通民法
ニ齊シク成法ト習慣トヲ以テ成ル今ヤ航海

ハ重キニ海商ヲ目的トスルカ故ニ海上民法
ハ海商法ト同一物タリ而シテ海商ハ船客ノ
運送漁獵國土發見又ハ遊娛ノ為メニスル職
装ヲ必スシテ除クニ非スト雖モ主トシテ海
上運送ニ係ル何トナレハ航海ハ其目的ノ如
何ヲ問ハス海商法ノ要項ニシテ航海ノ業ハ
縱令商業ヲ本トセサルモ常ニ商業ト見做ス
ヘケレハナリ故ニ海上船舶ハ為替或ハ支拂
切手ノ如ク必ス之ヲ商事ト看做シ殊ニ實際
ニ於テハ軍艦ヲ除クノ外百種ノ船舶殆ント
皆ナ海商即チ海上運送ニ供スルモノナリ是
ヲ以テ遊娛船ヲ以テ世界一周ヲ為サン歟其

船員并其船舶ニ關スル契約及海難ニ就テハ
眞ノ商船ト同一ノ原則ニ據ラシム獨國商法
第四百三十二條ニ航海ヲ以テ利ヲ營ムヲ目
的トスル船舶ニ限リタルハ其區域狹隘ト云
ヘシ本條ニ於テハ前記ノ理由ヨリシテ佛國
商法第百九十條ニ準シテ商船及其他ノ海船
ト記ス(千八百十一年レールイ獨國海上法說
明第一冊第二葉)是ヲ以テ海商法ノ原則ニ準
據スヘキ船舶ニ屬スルモノハ持リ眞個ノ商
船即チ貨物運送ノ為メ遠海又ハ港ヨリ港ニ
運航スル船舶ニ止マラス總テ運送船(旅客船
モ共ニ)漁獵船稅船又解船信號船等ノ如キ港

内通文ノ為ニ用ユルモノ又海底電信架設
郵便電信送達ニ用ユルモノ及國土發見(北極海航)
如シ學術或ハ遊娛ノ如キ特別ノ目的アツテ
航海スルモノ或ハ測量等其他海上起業ノ為
ノ航海スルモノ等總テ人民ノ私有タル海上
船舶ハ皆ナリ即チ佛國破毀裁判所ノ判決
ニ各個人ノ用ニ供シ各個人ノ營業ニ充ツル
船舶ト云ルカ如シ獨リ軍艦ハ國ノ所有物ニ
シテ商業交通及人民生存ノ為ニ設ケタル
モノニ非サルカ故ニ右ニ屬セサルナリ佛國
ニテハ「ナウピル」及「ウエイソ」ノ語ヲ用ヰテ
此兩種ノ船舶ヲ區別ス(デラワール、ウエイリ

エール氏著デマシヤ氏千八百六十八年第一
七出版ノ高法論說第三百四條)リエールス、ド
レロニ及コンソラート、デル、マール、ノ如キ
往古ノ海上法ニハ右ニ記スル海上法ノ諸部
類ヲ包括シ千六百八十一年佛國ノ「シャルド」
ニス、ド、ラ、マリールニハ其五冊五十二章中重モ
ニ海上警察ノ「ニ」關スト雖モ半ハ右ノ諸法
ニ同シ近時ノ法律ニ於テハ海上法ノ諸部類
ヲ區別スル「」ヲ始メ佛國高法第二卷ニ專ラ
民法上ノ事ヲ記ス其他ノ高法モ亦同シ但タ
海上警察ニ屬スル事ハ之ヲ合記スル「」ナキ
ニ非ス又實ニ分別シ能ハサルモ「」アリ何ト

ナレハ是レ併セテ行政及民法上ニ關係ヲ有
 スレハナリ即チ船舶ノ測量登録船員ノ權利
 義務及海難等ニ係ル規則ノ如キ是レナリ水
 案ハ此點ニ就テ全ク右ノ商法ニ倣ヒ萬國海
 上法行政即チ警察法ノ原則ハ海商法ノ外ニ
 居キ之ヲ特別ノ法律ニ讓ル此萬國海上法等
 ニ係リテハ佛國ニ於テハ千六百八十一年ノ
 「ブルドナンス」及其後ノ法律即チ千八百四十五
 年六月十三日及千八百六十六年五月十九日
 ノ法律伊國ニ於テハ千八百六十五年六月廿
 五日及千八百七十七年五月廿四日ノ商船法
 英國ニ於テハ千八百五十四年八月十日ク
 ト井

別ヤ即チ千八百四十四年ノ商船條例シツル
 トリ及其附錄追加即チ千八百五十五年八月十
 四日ノ法律第百九十九號即チ同日附
 ノ船客運送規則第百九十九號即チ同日附
 八百六十二年七月廿九日第百九十九號即
 第三章及千八百七十六年八月十五日ノ法律
 九百九十四號即チ千八百六十九年五
 月十三日ノ殖民地其他ノ商船條例獨國ニ於
 テハ千八百六十七年十月廿五日ノ商船屬籍
 規則千八百七十六年八月十四日ノ海難信號
 條例千八百七十七年七月廿七日ノ海難調査
 規則千八百七十三年六月廿八日ノ商船登録

及記號規則千八百七十二年七月五日ノ船舶
測量條例千八百七十二年十二月廿七日ノ海
員條例千八百七十四年五月十七日ノ瀬揚條
例等アリ

本條ハ第一ニ日本人民ノ所有スル船舶ヲ以
テ日本船舶タルノ資格アリトスルノ原則ヲ
示ス故ニ其船舶所有者ノ屬籍如何ニ因テ其
船舶ノ屬籍ヲ判ス是レ他ノ各國ニ於テモ概
ネ原則トスル所ニシテ獨國ニテハ千八百六
十七年十月廿五日ノ獨逸商船屬籍規則第二
條英國ニテハ千八百五十四年ノ商船條例第
十八條西國ニテハ商法第五百八十四條合衆

國ニテハ千七百九十二年十二月三十一日及
千七百九十三年二月十八日ノ法律(ソント説
明第三冊第百三十九葉以下)那威國ニテハ千
八百六十年三月廿四日ノ航海規則第一條蘭
國ニテハ千八百六十九年五月廿八日ノ商船
屬籍規則アリ佛國ニ於テモ千七百九十三年
九月廿一日ノ法律ヲ以テ同一ノ原則ヲ是認
シタリト雖モ千八百四十五年六月十三日ノ
法律ヲ以テ所有權ノ一半以上佛國人民ニ屬
スルモハ佛國船舶タルノ資格アルニ充分ナリ
ト改メタリ伊國法律ニ於テハ伊國船舶ノ所
有權三分一以下ハ外國人ニ屬スルヲ得ル

モノトス(高法雜誌第十二冊附錄第三百四十
二葉以下ヲルトラン海上文際法第一冊第百
九十葉以下)蓋シ萬國公法ノ原則ニ依ルモ船
舶ノ屬籍ハ其所有者ノ屬籍ニ因テ定マルモ
ノトス然レモ此ニ屬籍トシテハ所有者商業
上ノ住地ヲ主トスルモノニシテ戰時局外中
立ノ權利義務ニ關シテハ平常營業ヲ為ス國
ノ船舶タル資格ヲ商船ニ與フ此點ニ付テハ
商船ノ定撃港ニ於テスル登録規則ヲ以テ標
準トス(フイリモ一レ氏萬國公法第三卷第七
百三十四葉ホウ井トニ氏萬國公法原論第四
篇第一款第二十一條千八百五十四年ノ英國

商船條例第十八條

本章ニ於テハ船舶所有者ノ屬籍ノ外別ニ必
要トスルトヲ定メス但タ會社其他ノ無形人
及ニ定撃港ノトニ係リ定ムル所ヲ別トス此
點ニ就テ本章ハ近時各國多數ノ法律ニ倣ヒ
總テ近世海上法ノ寬恕自由ヲ採ル舊時ニ於
テハ右ノ外種々ノ要件ヲ掲ケタリ例ハ其
製造ヲ本國ニ於テシタルト船長及ニ船員ノ
屬籍或ヒハ船員過半数ノ屬籍ノ如キ是レ十
リ(ヲルトラン氏海上文際法第一冊第百九十
葉以下)千七百九十三年九月廿一日ノ佛國法
律ニ於テモ其船舶國內又ハ殖民地及屬國ノ

製造ニ出タルモノタルヲ要シ但タ佛國裁判
所ニ於テ正當ノ捕獲物タルトヲ認可シタル
モノヲ除ク千七百九十二年十二月三十一日
ノ合衆國法律ニ依レハ船長ノ屬籍ハ勿論傷
合ニ因リ船員ノ屬籍如何ニテ問フ(ケント氏
說明第三冊第四百十二葉第百八十葉)斯ノ如
キ過太ノ必要ハ近世益々廢止ニ屬シ殊ニ今日
日本ノ景況ニ適セサルモノナリ今マ之ニ代
ユルニ國ノ需用ニ應ズル船員ノ伎倆ヲ監督
シ之レニ就テ特別ノ規則ヲ定ムルトテ以テ
スレハ充分トス(千八百八十一年第十二出版
アボート氏一名ロド、テンテルデン高船及船

員規則論說第七十七葉)蓋シ屬籍ノ資格ヨリ
シテ專ラ該國ノ法律及裁判權ニ服従スルト
生シ是レ獨リ自國ノ港内近海ニ於テ然ルニ
止マラス遠洋ニ於テモ賊船奴隸船等ニ俘リ
萬國公法ニ於テ例外トスルモノ、外亦タ然
ラサルヲ得ス加之外國ノ港内ニテモ其外國
カ他國ノ船舶ニ自己ノ裁判權ヲ許ス成ハ亦
タ然リ(オルトラン氏海上文際法第一冊第十
三條)其他屬籍ヨリシテ生スル結果ハ其國ノ
立法及行政權ヨリ其自國ノ船舶ニ與フル特
權或ハ國際條約ヲ以テ他國ノ船ニ與フル特
權ヲ論スルニ其船舶ノ屬籍如何ニテ以テス

ル丁是レナリ又戦争及局外中立等ニ係ル萬
國公法上ノ權利義務モ亦々其屬籍ニ據テ定
マルモノナリ是ヲ以テ船舶ノ屬籍ヲ明文法
ニ基ツカシメ之ニ就テ其國ノ法律ヲ以テ明
確簡單ノ原則ヲ定メ之ヲシテ他國法律及萬
國公法ノ原則ニ抵触セサラシムルハ種々ノ
點ヨリ論シテ太々緊要ナリ蓋シ戰時ニ於テ
ハ場合ニ依リ他國ノ政府ヨリ某船舶ノ屬籍
ヲ認可セサルナリ或ハ反對ノ認定ヲ為ス
トナシトセス然レモ是レ萬國公法上ノ問題
ニ屬シ茲ニ論悉スル能ハス(フリーイモール氏
萬國公法第三冊第七百三十四葉)

凡ソ船舶屬籍ヨリ生スル最モ浩汎ナル結果
ニシテ併セテ屬籍ノ公然タル目標トナルモ
ノハ國旗ヲ用ユルノ權利是レナリ國旗ヲ用
ユルノ權利ハ其國ノ船舶ニ屬スル百種ノ權
利ヲ包含スルモノナルカ故ニ本案ニ於テ之
ヲ明言シタリ然レモ權利アレハ必ス義務ア
リ何レノ船舶タリトモ平常ノ景況ニ於テ他
國ノ國旗ヲ揚ケ他國ノ屬籍權利ヲ横取スヘ
カラス今マ之ヲ拒止セニカ為メ第八百三十
二條及第八百三十三條ノ罰則ヲ設ク故ニ船
舶ノ屬籍ハ其揚クル國旗ニ依リテ利スルヲ
例トシ但々故ニ其揚クヘカラスナル國旗ヲ

揚ヶ又ハ實ニ其國旗ヲ用ユルノ權ナク又ハ其國旗ニ法律上ノ効力ヲ與フハカラサルヲ證明シタルハ此限ニ在ラス例ハ日本港ニ商店ヲ有シ此ヲ本據トシテ商業ヲ營ム英國商人ニシテ英國ノ國旗ヲ掲ケタルハ假令日本ノ法律ニ依リ日本ノ國旗ヲ掲クルノ權利ナキト雖モ戰時敵國ヨリ之ヲ其船舶ノ英國ノ屬籍ニ在ルヲ是認セサルトナシトセサルナリ

前ニ述ヘタル如ク日本船舶ノ所有權ハ各國ノ法律ニ於ルト同シク一個人ニシテ之ヲ所有スルト然ラサルトニ拘ハラス專ラ日本人

民ニ歸セサルヘカラス而シテ是レ專ラ一個人ニ歸スルト數多ノ人ノ共有ニ屬スルトヲ問ハサルナリ夫レ數人ニシテ一船舶ノ所有權ヲ分有スルハ(是レ甚タ多シ)購求ニ出ルアリ或ハ其製造若クハ機裝ニ出金スルヨリ生ズルトアリ此船舶持部ハ佛語ニテキラトト稱シ尙下ニ陳述スル所アルヘシ今此原則ニ就テ會社其他ノ無形人ニ於テ日本ノ船舶ヲ所得シ或ハ之ヲ所持シ得ルハ例外トシ其社員ノ全ク或ハ幾分外國ノ人民タルハ妨ケナシ(千八百五十四年ノ英國商船條例第十八條第三項)獨國ニ於テモ千八百六十七年十月

廿五日ノ商船屬籍ニ關スル法律第二條ニ同
 一ノ規則アリ但夕多少ノ制限アルニ然リ
 ト雖モ會社其他ノ無形人ハ二個ノ要件ヲ備
 エルニ非サレハ日本ノ船舶ヲ所得スルヲ能
 ハス此要件ハ第一會社其他ノ無形人ノ日本
 國內ニ在ルヲ第二其會社等ノ日本裁判權ニ
 服從スルヲ即チ是ナリ其社員ノ全部又ハ一
 部ノ日本人タルヲ或ハ澳國及蘭國ノ法律ニ
 於ルカ如ク會社役員ノ全部又ハ一部ノ日本
 人タルヘキヲ必要トセヌ英國佛國及獨國
 ニ於テハ本率ニ採用シタル原則行ハル(商
 法雜誌第十二冊附錄第三百四十七葉)今此ニ

要件アル時ハ船舶屬籍ノ資格ハ充分ニ備ハ
 ルモノニシテ殊ニ日本法律及其國權ヲ施用
 スルニ充分ナリ會社ニ員ノ日本人タルト外
 國人タルトハ之ヲ問フナシ今日ノ條約ニ
 依レハ日本人民ニ限ルハシト雖モ將來裁判
 權ノ制限ヲ脱スルニ至ラハ外國人ノ日本ニ
 於テ設ケタル會社ニ日本船舶ノ所得ヲ禁ス
 ルノ理由ナカルヘシ加之是レ萬國公法ノ期
 望スル所ニシテ萬國公法ハ船舶所有者ノ商
 業住地ヲ大切ニスルモノナリ又日本船舶ノ
 製造及海商ニ係リ外國資本ノ輸入ヲ誘起シ
 外國人ヲ傭雇スルノ時期ノ如キ方便ニ因ラ

外國ノ知識及實驗ヲ之ニ加用スル(外國人雇
入ヲ以テスル方法ノ外)ノ一點ヨリ論シテ又
右ノ如キハ其宜ヲ得タリト云フハシ今マ航
海及海商ヲ振起スルハ日本最大ノ利益ニシ
テ外國ノ資本ヲ之ニ用エルヤハ其振起一層
ノ大ヲ加フルヤ必セリ本案ニ合名會社ト他
ノ會社トノ區別ヲ立テサルト英國法律ニ同
シク合名會社モ亦タ場合ニ依テハ獨立人ト
為リ其社ノ名義ヲ以テ百種ノ所有權ヲ所得
スルヲ得ヘシ(第七十三條)蓋シ英法ニ於ル通
常ノ組合(パルトネールシツァ)ハ「ボデー、コルポ
レート」即チ「コンペニー」ニ算入セスト雖モ又

タ商社ノ特別ナル性質ヲ有セズ即チ會社財
産ヲ有スル能ハス又合名會社ノ社員ノ連帶
義務アルカ為メニ必スシモ之ヲシテ會社財
産ニ付テ各個ノ所有權アラシムルニ非ス而
シテ此義務モ他ノ商社(株金會社ト雖モ)ニ於
テモ英法ニ依レハ許ス所ナリ故ニ獨國法律
ニ定ムルカ如ク會社ノ社員ニ外國人ヲ以テ
連帶責任アル社員トスル會社ヲ除クハ法律
上ノ必要ナシ故ニ本案ニ依レハ外國人日本
ニ在テ相互ノ間又ハ日本人ト共ニ會社ヲ設
立シタル時ハ其會社ノ合名會社タルト否ト
ヲ問ハス其會社ノ名義ヲ以テ日本屬籍ノ船

船ヲ所得シ商業等ノ為メ之ヲ使用スルヲ
得ルモノトス但タ必要トスルハ日本ノ裁判
權ニ服従スルニ在ルノミ是レ啻タ其當ヲ得
タルノミナラヌ尚熱望スヘキナリ假令ニ
其外國人日本ノ籍ニ在ラサルモ亦タ然リ何
トナレハ此點ニ就テハ商業上ノ住地ヲ以テ
主トシ會社ハ其住地ニ因リ多少屬籍ノ資格
ヲ得ル所ノ無形人ニシテ外ニ住地ヲ有セサ
ルモノナレハナリ天造人ニ在テハ之ニ反シ
其住地ヲ以テ充分トセス眞ノ國籍ヲ必要ト
ス

第八百二十五條 總テ日本船舶ハ航海ノ用ニ
供スル以前ニ法律命令ニ從ヒ職權アル者ノ測
度ヲ受ク可シ若シ其積量十五噸以上ナルハ
船籍港ヲ管轄スル裁判所ニ於テ船舶登記簿ニ
登記ヲ受ク可シ
端舟其他擄擢ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ
擄擢ヲ以テ運轉スル舟ニハ本編ノ規定ヲ適用
セス
本條ニ於テハ航海ノ為メ又ハ港内ニテ海商
其他ノ目的ノ為メニ船舶ヲ使用スル前ニ個
ノ條件ヲ履行スヘキ規則ヲ設ク即チ官ノ測
度及登録是レナリ是レ他ノ各國法律ニモ同

ク規定スル所ニシテ(英國ニ於テハ千八百五十四年ノ商船條例第十九條及第三十六條獨國ニ於テハ千八百六十七年十月廿五日ノ商船屬籍規則第六條及第七條佛國ニ於テハ千七百九十三年九月十八日ノ法律)是レ船舶ノ適同及屬籍ニ就テ初メヨリ公認ヲ受ケシムル為メニ緊要タリ何トナレハ船稅上納ノ義務若クハ運送及保險ノ如キ最モ船舶ニ重大ナル契約ヲ取結フニハ之ヲ以テ標準トスレハナリ

船舶ノ測度(ジヨゼアーシユ)ハ全ク技術ニ屬スル者ニシテ之ヲ特別ノ法律ニ讓ル是レ近

時各國ノ法律ニ採用シタル英國ノ測度法(モルソン法)ニ依リ船舶ノ容積ヲ測度スルニ在リ而シテ其積載カトハ其船舶ノ乘載シ得ヘキ容積ヲ稱スル者ニシテ通例之ヲ登録噸數(レギス、ラル、トニ)ト唱フ獨逸ノ法律ニ於テハ「トール」立方ヲ以テ計算ス但シ登録噸數ノ一噸ハ百「フース」立方積ニシテ(千八百五十四年ノ英國商船條例第二十條以下千八百七十二年十二月廿四日及千八百七十三年五月廿四日ノ佛國法律千八百七十二年七月五日ノ獨國法律千八百七十四年五月六日ノ合衆國法律千八百七十五年六月三日ノ蘭國法律千

八百七十一年五月十五日及廿四日ノ澳國法律
律千八百六十八年四月廿六日ノ露國法律(環
海ノ諸國間ニ於テハ其與ハタル船舶測量證
ヲ互ニ是認スヘキノ約ヲ結ビタルモ多シ
今マ法律ニ定メタル手續ニ據リ其資格アル
モノニ限り即チ官務上ニ於テ測量ヲ為スヘ
シトスルハ一ハ右ノ為メニシテ又一ハ測量
ノ畫一及其効力ノ同一ヲ必要トスルカ為メ
ナリ

其測量ノ結果ニ就テハ法律上ノ式ニ據テ證
書即チ測量證書(英語之ヲセフルヲウイケル
ト)ヲ下付スヘク此證書ハ船舶登録申出ノ至要

ナル添書トナル(千八百五十四年ノ英國商船
條例第三十六條及甲號書式千八百七十二年
七月五日ノ獨國船舶測量條例第二十四條並
ニ甲號乃至戊號ノ書式)
船舶ノ登録ハ獨リ日本港(定繫港、登録港)ニ於
テ之ヲ為スヘク得若夫レ管海官衙ノ設ナキ
港ニ於テハ其港ヲ管轄スル他ノ管海官衙ニ
於テ之ヲ為スヘシ是レ千八百五十四年ノ英
國商船條例第三十三條及千八百六十七年十
月廿五日ノ獨國法律第五條同高法第四百三
十五條ニ規定スル所ナリ船舶登録ヲ掌トル
官衙ヲ區裁判所トス主トシテ獨國ノ例ニ

働ニタルモノナリ則チ獨國ニテハ或ハ裁判
所或ハ縣廳ノ支街或ハ其他ノ團結役場ニ於
テ之ヲ登録(レ)ラニス第一冊第七葉一定ノ港
ニ於テ登録ヲ受ケシムルキハ船舶屬籍ノ資
格ニ國地ノ根據ヲ與ハ依リテ以テ其國人民
ノ自己ノ船舶ヲ以テ他國ノ航海及海商ニ加
ハリ其高船艦隊ノ勢カヲ翼クルトヲ拒クニ
足ル又定撃港ハ多少船舶ノ住地ヲ表スルモ
ノニシテ船舶ヲ以テ獨立ノ權利義務ヲ有ス
ル人ト見做スノ實用ヲ為スノミナラス尙船
船所有者ノ海商上ノ住地ヲ表シ以テ同シク
一定ノ地ニ於テ登録ヲ受ケサルハカラサル

所ノ商社ノ所有地ト相照應ス(第七十九條第
百六十八條)蓋シ此ノ如クニシテ一切ノ日本
船舶ヲ日本裁判及法律ニ服從セシムルニ足
ルヘシ本率ハ登録ヲ受ルノ權利及義務アル
人ニ就テハ一モ之ヲ明記セズ獨國(千八百六
十七年十月廿五日ノ法律第十二條)及英國(千
八百五十四年ノ商船條例第三十五條)ノ法律
ハ即チ然ラス蓋シ此權利義務ノ船舶所有者
ニアルハ論ヲ俟タズ然レモ數人ノ所有者其
内ノ一人又ハ代辦人ヲシテ代理セシムルヲ
得ルハ第二十條及八百廿七條ニ因リ亦
夕自ラ明カナリ登録ヲ怠タル時ハ其船舶國

旗ヲ用エル能ハス又航海ヲ為ス可能ハス即チ自カラ其罰ヲ受ルモ、シテ之ヲ怠ル一モアルヘカラス

登録スヘキ船舶ハ稍大ナルモ、シテ十五噸(凡ソ二百五十石)以上ノ船舶ニ限ルテ英國ノ千八百五十四年ノ商船條例第十九條ニ於ルカ如シ然レ氏同國殖民地ノ沿岸航海及漁獵ニ屬スルモノハ三十噸ヲ以テ最下限トス千八百七十三年六月廿八日ノ獨逸法律第一條ニ依レハ五十「^リ」ト立方ノ容積(風袋共)ヲ以テ最下限トス是レ千八百七十三年十一月十三日ノ獨逸聯邦派遣使院布達ニ依ルニ

帆船ノ二十二噸汽船ノ十五噸ト均シキモノト為ス此以下ノ小船ハ商船ノ屬籍上ニ關スルノ權サニシテ本國ノ沿海ヲ離ル、ハ寔ニ例外ナレハ之ニ大船ト同一ノ考慮ヲ用ユルヲ要セス然レ氏此ノ如キ小船亦タ第八百二十四條ニ依ルヘキモノニシテ假令ニ登録ヲ受ケサルモ國旗ヲ用ユルノ權利アルモノトス加之其登録ヲ受クヘキノ義務ハ之ヲ免カサル、ト雖モ其權利ニ至テハ敢テ之ヲ奪フ可ラサルナリ是レ獨國法律ニ於テモ是認スル所ナリ(レウ井ス第一冊第十六葉)

法ヨリ除カサルヘカラス其航海ニ堪ヘル船
 船ニ算ズルニハ船體ノ巨大及遠洋ノ航行ヲ
 必要トスルニ非ス即チ風波ニ堪ヘ海上百種
 ノ偶變及危險ヲ凌クノ能アルヲ要ス而シテ
 此能アルモノハ獨リ汽船及帆船ニ限り檣櫂
 ヲ用ルモノハ然ラス何トナレハ檣櫂ヲ以テ
 スル人カハ遠洋ノ航行ニ堪ユ可ラサレハ十
 リ檣櫂ヲ用ユル小船ト雖比併セテ帆ヲ用ユ
 ルノ準備ナキニ非スト雖モ是レ唯タ附屬ニ
 止マリ其力小ナリ故ニ此ノ如キ小船ハ帆ヲ
 備フト雖モ未タ法律上ノ海船ト視ルヘカラ
 サルナリ右ノ要旨ハ既ニ千八百五十四年ノ

英國法律第二條ニモ定ムル所ニシテ若夫帆
 船ニシテ傍ラ檣櫂ヲ用ルモ未タ帆船タルヲ
 失ナハス例ヘハ日本ノ親船ノ如キ是ナリ

第八百二十六條 船舶登記簿ニハ左ノ諸件ヲ
登記シ且日附ヲ為ス可シ

第一 船名及ニ船籍港

第二 船舶構造ノ時及ニ地ノ知レタル氏ハ

其時及ニ地又船舶カ日本ノ船籍ニ歸シタ
ル氏ハ其時及ニ事情

第三 官ノ測度證書ニ基キタル船舶ノ種類

大小積量及ニ詳細ナル記載

第四 船長ノ氏名及ニ國籍

第五 一人又ハ數人ノ所有者ノ氏名住所及

ニ詳細ナル記載又船舶ノ所有權ニ向キ所
有者ノ股分ノ割合及ニ所有權取得ノ合法

ノ原因

登記簿ニ記入スル水條ノ各項ハ各國法律ニ於ルト同シ(千八百五十四年ノ英國商船條例第四十二條第四十四條及千八百六十七年十月廿五日ノ獨國法律第六條)船長ノ氏名ヲ記入スヘキトハ右ノ法律ニ之ヲ掲ケス英法ニハ唯々之ヲ船舶登記證中ニ記入スヘキモノトス然レ此ニ特別ノ理由アルヲ見ス船長ハ船舶ノ權利上ニ關係ヲ有スルト尠ラス即チ船長ノ船舶上ノ契約ヲ取結フト係リテ責任ニ當ル等是ナリ又船長ハ長年若クハ永年ヲ期シテ其職ニ任スルト多シ船長ノ一身

ハ登記證ヲ以テ其資格ヲ證明スルヲ得ルモ其船舶不在ノ或他人ヨリ之ヲ確知スルニハ登記簿ニ據ルノ外ニ道ナシ且商業交通上ニ於テハ船號ト船長ノ名トシ併セテ其船ヲ指稱スルヲ以テ習慣トス

第八百二十七條 登記ハ一人若クハ數人ノ所有者又ハ委任狀ヲ有スル代人ノ陳述書ニ依リテ之ヲ為ス其陳述書ニハ必要ナル證明書ヲ添フルヲ要ス

登記ヲ為シタル中ハ其登記ト同文ノ船舶登記證書ヲ作りテ之ヲ所有者ニ交付ス

本條ハ大要第二十條ノ汎則ニ照應スルモノニシテ千八百五十四年ノ英國法律第三十八條乃至第四十條及第四十四條並ニ千八百六十七年十月廿五日ノ獨國法律第七條及第八條ニ掲クル所ニ同シ傳法ニ於ケル如ク其陳述ニ誓詞ヲ加フルハ其當ヲ得サルニ似タリ

陳述ハ登録ヲ受クヘキ諸箇條ニ就テ明瞭詳
 悉ナラサル可ラス而シテ其陳述ニ添フヘキ
 書類ハ主トシテ官ノ測度證(内國又ハ外國)
スハラ購求其他所得ノ證書及船舶ニ付裁判所
 ノ判定ヲ經タル場合ニハ判決書是レナリ右
 ト大要ヲ同シフスル所ノ「アクト、ド、フランシ
 ガシヨ」佛國船舶ト為スノ手續ニ係ル佛國
 ノ規則ハ主トシテ千七百九十三年十月十八
 日ノ法律ニ掲ク(ブラワール袖珍書第三百六
 葉)

第八百二十八條 船舶登記證書ノ交付前ニハ
 國旗ヲ掲クルノ權利ヲ行フテ得ス
 船舶カ沈没シ又ハ其全部若クハ一分カ外國人
 若クハ外國會社ノ所有ニ移リタル内ハ其船舶
 ノ登記ノ取消ヲ為シ且船舶登記證書ヲ還納ス
 可シ

第八百二十四條ニ據リ日本船舶ハ總テ自カ
 ラ國旗ヲ揚ルノ權利ヲ有スルテ橋自カラ日
 本ノ裁判權ニ服従スルカ如シ然レハ此權利
 ヲ施行スルニハ一般秩序ノ為メニ初ソ其屬
 籍ノ確認ヲ經サルヘカラス故ニ法律ニ依リ
 登記證ヲ得ル前ニハ其權利ヲ施用スルヲ許

ヲス而シテ船舶ノ登録ヲ怠リタル者ニ對シ
 其不利益トナル可キ法律上ノ結果ナキ時ハ
 多ク之ヲ怠リ為メニ船舶ノ權利上ノ事情不
 分明且不安全ナルニ至ルヲ多シ是ヲ以テ登
 記證ノ下付ヲ受ケサル以前ニ在テ船舶所有
 者若クハ其代人タル船長ハ假令他ノ事件ニ
 付テ其船舶日本ノ法律及其裁判權ニ服從セ
 サル可ラスト雖モ屬籍上ノ權利及特權ニ至
 テハ之ヲ執行スルヲ得ス(獨國千八百六十七
 年十月廿五日ノ法律英國千八百五十一年ノ
 商船條例第十九條第百六條)
 本條第二段ノ規則ハ事ノ自然ニ出ルモノニ

シテ即チ外國人ノ所有權ヲ内國船ニ許サ、
 ル諸國英國千八百五十四年ノ商船條例第五
 十三條獨國千八百六十七年十月廿五日ノ法
 律第十一條)ノ法律ニ揭クル所ナリ今ヤ船舶
 沈没シタル時ハ其登記證ハ實物ナキノ證書
 トナリ法律上ノ効用ヲ失フ又賣買若クハ
 相續等ニ因テ船舶所有權ノ一部タリトモ外
 國人ニ移轉シタル時ハ其船舶ハ本國屬籍ノ
 資格ヲ失ヒ隨テ其登記證亦タ無用ノモノト
 ナル若夫レ登記證書ノ併セテ亡失セサル限
 リハ他船ニ濫用スルヲ防ク為メ之ヲ還
 納セシムルヲ必要トス

相續結婚等、因テ資格ナキ者ニ船舶ノ所有
權自然ニ移轉シタル場合ニ於テハ其資格ナ
キ者ノ申立及計算ヲ以テ其所有權ノ全部又
ハ一部ヲ資格アル者ニ賣却シテ登記證還納
ノ義務ヲ免ル、ヲ得ハシ是レ英國千八百五
十四年ノ法律第六十二條第六十三條ニ明記
スト雖モ贅言ニ過キサルモ、シテ今所有
權ノ實行唯タ賣却ヲ目的トシ航海ヲ以テ目
的トセサルニ於テハ直ニ其船舶ヲ賣却シテ
所有權ノ移轉ヲ引戻ストヲ得ルハ論ヲ俟タ
サルナリ西國商法第五百八十四條ニ於テハ
三十日以内ニ賣却ス可キ義務アルモトシ

犯ス者ニハ船舶ヲ沒收スルノ罰ヲ加フ船舶
股分所有權ノ移轉ニ付テハ第八百四十一條
ヲ參觀ス可シ
船舶登記簿ハ他ノ登記簿ノ如ク海上交通上
ニ必要ナル船舶ノ權利上ノ關係ヲ一般ニ知
ラシメノ殊ニ船舶ノ屬籍ヲ認知スルノホトナ
ルモノナレハ唯タ政治行政上ニ効用アリ然
レ此此登記簿ハ不動産書入質登記簿ノ如ク
契約者雙方間若クハ他人ニ對シ法式的ノ權
利ヲ生スルナク其記入事件ノ實際ト異ナ
ル時ハ之ニ故障ヲ申立ルヲ得ヘク若シ其
記入事件實際其害ニ非サル成ハ之ヨリ權利

義務ヲ起ス丁ナシ例ハ日本屬籍ノ許可ヲ
得ニカ為ノ日本人獨リ所有者タルヲ登記
簿ニ記入シタルニ實際ニ於テハ其船舶ノ全
部又ハ一部外國人ニ屬スル時ハ其日本人ハ
之ヲ以テ裁判所及官署ニ對シ獨リ所有者
タリト唱フルヲ得ス又船舶債主モ然ルモノ
トシテ要求ヲ為ス能ハス蓋シ詐偽ノ記入ハ
警察上或ハ刑法上ニ於テ其罰ニ處セラレ登
記官署ニ於テモ隨意ノ陳述ヲ記入セズ必ス
ヤ第八百二十七條ニ據リ必要ノ證明ヲ徵セ
サルヘカラス獨國法律ニ於テハ記入ヲ受ル
ノ前其事件ノ正眞ナルヲ證明ス可キモノ

トス然レモ登記簿ノ記入ハ法式的ノ權利ヲ
作ル所ノ裁判所ノ判決ニ基クニ非ス法式上
ノ審査ナクシテ唯々行政上ノ注意ヲ用ユル
ニ過キサレハ何人タリトモ訴訟上ニ於テ之
ニ故障ヲ申述ル丁ヲ得此場合ニ於テハ第廿
一條及第廿二條ノ規則ヲ適用ス今モ記入事
件ニ對シテハ裁判所ヘノ申立(第二十一條)ヲ
以テ異議スヘキ丁アリト雖モ此ノ如キ判決
ハ記入上ノ外部即チ人及物ノ正否ニ止マリ
其物ニ係ル權利義務ニ涉ル丁ナシ故ニ日本
ノ國旗ヲ掲ケ登記ヲ受ケタル船舶ハ之ヲ以
テ未ダ直ニ日本人民ノ所有船舶ト為スヲ得

ス實ニ其船舶ヲ買タル者ハ縱令船舶賣主ノ
氏名尚ホ登記簿中ニ存スルモ眞ノ所有者タ
ルヲ失ナハス是ヲ以テ其登録ニ關スル規則
ヲ守ラサルモ實際ニ存スル民事上權利關係
ニ變更ヲ生スルヲ示シ第廿二條ノ末段ニ登
記ヲ以テ直チニ權利關係ヲ動カラ可キ時ハ
之ヲ明記セサル可ラスト定メタルモハ此
場合ニモ全ク通用ス可シ(レウ井ス第一冊第
四葉)昔時英國法ニ於テハ船舶登記簿ヲ以テ
異議スヘカラサル無限有効ノ證據物ト視タ
リ(ウ井クトリヤ即位八年及九年第八十九章
然レ氏是レ近今ノ法律(千八百五十四年ノ商

船條例第百七條)ヲ以テ改正セラレ今日ニ至
リテハ之ヲ以テ唯タ思料的ノ證據(フリマ
フヘシ)ニ過キサルモノトシ反對證ヲ以テ
破ルヲ得ヘシ(アボット氏商船及船員論
第二十一葉及第五十五葉)

第 八 百 二 十 九 條 登 記 シ タ ル 事 實 ・ 變 更 ノ 生
ス ル 氏 ハ 船 舶 登 記 簿 及 ビ 船 舶 登 記 證 書 ・ 其 變
更 ヲ 附 記 ス 可 シ

登 記 シ タ ル 船 名 ハ 官 廳 ノ 許 可 ヲ 受 ク ル ニ 非 サ
レ ハ 之 ヲ 變 更 ス ル 丁 ヲ 得 ス

本 條 ハ 船 舶 ノ 屬 籍 及 其 權 利 關 係 ノ 大 要 ニ 關
ス ル 事 實 ヲ 公 認 シ 以 テ 之 ヲ 一 般 ニ 知 ラ シ ム
ル ヲ 以 テ 登 記 ノ 目 的 ト ス ル ヨ リ 生 シ タ ル 又
ノ 十 リ 故 ニ 記 ス ハ 成 ル 可 ク 事 實 ト 相 合 セ サ
ル 可 ラ ス 然 ラ サ レ ハ 登 記 簿 ハ 唯 タ 名 ノ ミ 夫
レ 前 條 ニ 述 ル 如 ク 記 ス ハ 法 式 的 ノ 權 利 ヲ 作
ル モ ノ ニ 非 ス ト 雖 モ 立 法 ハ 成 ル タ ケ 其 確 實

正當ナラシムルトニ注意セサル可ラス是ヲ以テ記入事實ノ變更シタル時ハ其書替ヲ申出ルノ義務アル者トス獨國千八百六十七年十月廿五日ノ法律第十一條及英國千八百五十四年ノ商船條例第四十五條第四十六條第八十五條以下ニモ右ノ規則アリ本條ハ新登記簿ニ記入シ更ニ登記證ヲ交付スヘシト云フニ非ス唯々其書替ヲ受可キモノトス即チ新所有者新船長新船名ノ記入是ナリ然レ凡所有者自カラ利トスルニ於テハ更ニ登記簿ノ記入及登記證ノ下付ヲ請求スルモ妨ケナシ是レ船舶ヲ大ニ改造シ若クハ其大要ヲ

變更シタル凡第八百二十六條第三項ニ示ス事實ノ一ニ止マラス全ク適當セサルニ至リタル凡又ハ其股分所有者ノ一二ヲ變シタルニ止マラサル凡又ハ定繫港ノ變シタル凡ニ然リ英國法律ニテハ此ノ如キ場合ニ於テ新ニ登記簿ニ記入シ及更ニ登記證ヲ下付スヘシト定ム然レ凡適切ノ理由アリテ然ルニ非ス何トナレハ縱令ニ定繫港ヲ變スルモ一國內ノ諸登記官衙ハ同一ノ證書ニ就テ其職ヲ行ナフヲ得ヘケレハナリ然レ凡此場合ニハ新港ノ登記簿中ニ記入セサル可ラス而シテ之ヲ請求スルハ舊官衙ニ於テスルモ新

官衙ニ於テスルモ共ニ可ナリ(ウ井クトリ
即位十八年及十九年第九十一章第十二款)
船名ハ隨意ニ改ムルヲ得ス何トナレハ航海
ニ堪ヘサル船舶ニ新名ヲ付シ運送ヲ為シ或
ハ保險ヲ得ントスルカ如キ詐偽ヲ企ルノ憂
アレハナリ然レモ亦タ他ニ其然ル所以ノ理
由アリ例ヘハ犯罪又ハ賠償義務ヲ生スルノ
行為(衝突或ハ海關稅則等ノ違背)ノ發覺ヲ免
レントスルヲ防ク是レナリ獨國千八百七十
三年六月廿八日ノ法律第二條英國千八百七
十一年十月廿一日(ウ井クトクマ即位三十四
年及三十五年第一百十章)ノ法律第六條ニモ同

一ノ規則アリ而シテ其改名ノ許可ハ英國ニ
テハ高務者(ボルド、オフト、トレイト)獨國ニテハ
帝國太政官ヨリ之ヲ與フ蓋シ該事件ハ必ス
中央官廳ニ任セサルヘカラス其中央官廳ノ
何レヲ以テ之ニ充ツヘキヤハ此ニ之ヲ判定
セス
然レモ此規則ハ唯タ登記セラレタル船名ニ
關スル者ナリ今外國ノ登記簿ニ記入シタル
船舶ニシテ日本ノ所有ニ歸シタルモ、名
ニモ此規則ヲ及ホスヲ得ヘキヤノ問題アリ
英國ノ法律ハ可ヲ以テ之ニ答フ即千八百
七十三年八月五日ノ英國法律(ウ井クトリマ

即位三十六年及三十七年第八十五章第五條
此ノ如キ場合ニ於テ法律上改名ノ許可ヲ
得サルモ唯々從前ノ外國船名ニテ記入ス
ルヲ得ヘシト為ス獨國ニ於テハ船名ヲ改メ
テ詐偽ノ賣却ヲ為スルヲ防ヤン為メ外國
ニ於テ購求シタル者ハ之ヲ檢査シ航海ニ堪
ヘ可キノ公證所謂國旗證書(第八百九十四條)
ヲ下付スルヲ得ヘシトス(レウ井ス第一冊第
十葉)佛國ニ於テ千八百三十六年七月五日ノ
法律ニ船名ノ變改ヲ禁シタルモ唯々佛國船
ト為スノ手續ヲ以テ登記シタル船名ノミニ
係ルカ如シ日本ニ於テハ外國ヨリ購求シタ

ル船舶ニハ新ニ日本語ノ船號ヲ付スルノ習
慣アリ故ニ外國登記ノ船名ヲ變改スルハ
本條ノ禁制ニ屬セズ以テ登記ノ船名トハ即
チ日本ノ登記簿ニ記入シタル船名ニ限ルモ
ノト知ル可シ
又船名及定繫港ヲ外部ノ船壁就中舳ノ兩側
及艙ニ明記ス可キノ規則ヲ設ルテ註シトセ
ス例ハ獨國千八百七十三年六月廿八日ノ
法律第二條ニ於ルカ如シ殊ニ英國ニ於テハ
端船ニ至ルマテ此規則ヲ及ヒス(ウ井クトリ
ヤ即位三十四年及三十五年第一百十章第六條
同ノ三十九年及四十年第三十六章第七十

五條是レ主トシテ警察及關稅支拂ノ為メニ
設クル所ニシテ高船航海上ノ行政規則ニ讓
ルヲ以テ至當トス

第八百三十條 日本國外ニ於テ日本ノ人民會
社其他ノ無形人カ外國ノ船舶ヲ取得シタル者
ハ初メテ日本ノ船舶港ニ到着スルマテハ其取
得ノ地又ハ其近傍ニ駐在スル日本領事ニ差出
シタル相當ノ陳述書ト領事ヨリ受取リタル證
書トヲ以テ船舶登記簿ノ登記及ヒ船舶登記證
書ニ代フルヲ得此場合ニ於テハ領事ハ其證
書ノ謄本ヲ遲延ナク船舶港ノ管轄裁判所ニ送
付スルヲ要ス但此證書ノ代用ハ一个年ヲ限
トス

本條ノ規則ハ英國千八百五十四年ノ航海條
例第五十四條并ニウヰクトリア即位三十五

年及三十六年第七十三章第四條獨國千八百
六十七年九月廿五日ノ法律第十六條ニ揭ク
ルモノニシテ日本外ニ於テ所得シタル船舶
ノ其購買ノ内ヨリ直ニ日本船舶タルノ權利
義務アルヲ公認シ其本國々旗ヲ用ユルノ道
ヲ與フルモノナリ此場合ニ於テハ日本定撃
港ノ登記官衙ニ代リ領事ヨリ下付スル國旗
證ハ假登記證ニシテ後々眞ノ登記證ニ換ヘ
サルヘカラス是故ニ公證及其申立ノ手續ハ
登記官衙ニ於テスルト同一ニシテ然ルヘキ
證明書ヲ向セサル可ラス(其現在スル限りハ
蓋シ領事ノ公證ハ一時ノ効力ニ止マル者ニ

シテ長クモ一ケ年ヲ以テ限トスヘシ殊ニ英
國ニテハ唯々六ケ月トス今斯ノ如ク有効ノ
期限ヲ定ルハ登記及定撃港ニ係ル規則ヲ規
避スルトテ防クニ在リ
國外ノ屬地及殖民地或ハ條約上裁判權ヲ有
スル外國港ニ眞ノ登記官衙ヲ設クルハ右ト
異ニシテ(英國千八百五十四年商船條例第三
十條千八百六十九年殖民地商船條例ヲ并ク
トリヤ即位三十二年第十一章第六條乃至第
八條千八百七十三年商船條例ヲ并クトリヤ
即位三十六年及三十七年第八十五章第九
條)此ノ如キ外地登記官衙ノ登記證ハ充分有

知ノ證書ナレハ領事ヨリ下付スル所ノ假證書ト混同ス可ラス

第八百三十一條 船舶登記證書ノ喪失シ毀損シ又ハ用エ可カラサルモノト為リタルキハ之ニ換ヘテ新ナル船舶登記證書若クハ前條ノ證書ノ交付ヲ求ムルヲ得

此規則ハ英國千八百五十四年ノ高船條例第四十八條ニ定ムル所ニシテ難船燒失等ノ海難或ハ其他ノ事情ニ因テ登記證書ヲ亡失シタル時更ニ登記證書ノ下付ヲ請求スルヲ得セシムルヲ必要トス何トナレハ該證書所持スルハ各船舶ニ欠ク可ラサルモノナレハナリ船舶ハ百種ノ偶變及危難ニ遭遇シ易キヲ以テ此ノ如キ亡失最モ生シ易シ蓋シ紛失シタ

ル為替株券等ノ無効告示ニ於ルカ如キ法式
的ノ處分無効ヲ登記證ニ用ルハ必要ニ非ス
何トナレハ是レ唯タ其下付シタル船舶ノ限
リ効カアレハナリ然レ氏其紛失シタル事實
ト更ニ證書ヲ請求スルノ理由トヲ陳述セサ
ル可ラサルハ論ヲ俟ス若シ官衙ニ於テ詐偽
或ハ無根ノ請求タルノ疑念アル場合ニハ新
證書ノ下付ヲ拒ミ若クハ充分ノ證明ヲ得ル
マテ其下付ヲ停止スルヲ得ヘシ
若シ外國ニ於テ登記證ヲ亡失シタルハ期
日ヲ限ルノ假證書ヲ該國駐在領事ニ請求ス
ルヲ得ヘシ

第八百三十二條 船舶カ國旗ヲ掲クルノ權利
ヲ有セスシテ之ヲ掲クルハ千圓以下ノ罰金
ニ處ス又事情ニ從ヒ殊ニ不正ノ船舶登記證書
ヲ用井タルハ其船舶ヲ沒收ス
日本ノ船舶カ外國ノ國旗ヲ掲ケテ外國ノ國籍
ヲ冒シタルハ前項同一ノ罰金ニ處ス但敵ヲ避
クル場合ハ此限ニ在ラス
第八百三十三條 日本ノ船舶カ船舶登記證書
ノ交付前ニ國旗ヲ掲クルハ船舶登記簿ニ
虛偽ノ登記ヲ為サシノ若クハ虛偽ノ申立ヲ為
シタルハ其他本章ノ規定ニ違フハ百圓以下
ノ罰金ニ處ス

獨國千八百六十七年十月廿五日ノ法律第十
三條乃至第十五條及英國千八百五十四年ノ
商船條例第五十二條及第百三條ニ本條ト類
似ノ罰則アリ是レ外國ノ屬籍ヲ冒シ或ハ自
國ノ屬籍ヲ匿ス下ト船舶登記等ニ係ル規則
ヲ犯シタル尋常ノ註違トノ間ニ區別ス前者
ハ國際上ノ犯罪ニシテ事情ニ係リ外交上ニ
結果ヲ及ボシ國ニ損害ヲ加ヘ若クハ之ヲシ
テ他國トノ葛藤ニ至ラシムルノ恐レアリ例
ヘハ他國ノ國旗ヲ掲ケテ稅則港則航海條例
等ヲ犯スカ如キ是レナリ故ニ其罰ハ甚ク之
ヲ重クシ其極船舶ノ沒收ニ及フ罰ノ輕重ハ

殊ニ犯罪ノ企圖惡意及犯法ノ方法ニ依リ酌
量ス蓋シ外國ノ國旗ヲ掲クルニ惡意ニ出ラ
サル下ナシトセス例ハハ逃走ノ為メニシ又
ハ唯々怠慢ニ出タル時ノ如キ然リ英法ニ於
テハ如何ナル場合ト雖モ沒收ニ處ス但々敵
ノ捕獲ヲ免レ或ハ戰爭權ヲ施行スルノ目的
ニ出テタルヲ除クノニ此嚴酷ハ本案ニ採用
ス以テ事情ニ從ヒ其罰ヲ輕クスルノ餘裕
アラシタリ英國ニ於テハ千八百五十四年
ノ法律第百三條第三項及第四項ニ於テ本條
ニ掲クルモノ、外ニ船舶ヲ沒收ス可キ場合
ヲ定ム是レ嚴ニ過ルト謂ハサルヲ得ス

第八百三十三條ニ記スル杞罪ハ右ニ比シテ
輕ク唯々船舶登記簿ノ公然タル信用ヲ維持
スル為メニ罰スルノミ然レ其罪ハ刑事ニ
屬ス何トナシハ違警罪ノ罰金額ニ超過スレ
ハナリ英法ニハ是等ノ處杞ヲ輕罪ト為シ其
罰金額百磅ニ上ル獨法ハ之ヲ百タレルニ
止メタリ本條ハ獨法ノ寬ヲ採用シタリ其他
本條ニ該當ス可キ事項ニシテ特ニ掲ケサル
者ハ法律ニ背キテ船名ヲ改メ登記簿ニ登記
シタル事實ノ變換ヲ届出ス或ハ登記證ヲ還
納セサル等ニ係ル

第二章 船舶所有者

第一節 船舶所有權ノ取得及ニ移轉

第八百三十四條 商船其他ノ海航ハ之ヲ動產
トス但本法ニ例外ヲ定メタル場合ハ此限ニ在
ラス

船舶ヲ以テ動產ト為ス下ハ佛國商法第百九
十條伊國商法第百八十四條和蘭商法第
百九條白國商法第一條(千八百七十九年)ニ明
記ス是ヲ以テ船舶ハ不動產所有權ノ法ニ循
テ論ス可ラスシテ動產所有權ノ原則ニ因ラ
サル可ラス故ニ西國商法第五百八十五條ニ
明掲スルカ如ク商法ノ原則ヲ以テ論スヘキ

ナリ往時ハ船舶ノ其價高キカ為メニ之ヲ土地ノ如ク看做スノ傾向アリ實ニ國際上ニ於テハ水國ニ屬スル土地ノ一部タルノ効力アラシムルヲ多シ然レ氏輓近ニ於テハ動産法ニ循ハシムルヲ以テ其當ヲ得タリトスルニ至レリ何トナレハ是レ貿易並航海海上ニ利使大ナルカ故ナリ佛國千六百六十六年十月八日ノ布達ニ於ルカ如キ即チ是レナリ然レ氏船舶ハ他ノ動産ニ於ルカ如キ動産ニ非ス特別ノ固有質ヲ有スルカ故ニ例外甚々多シ佛國商法第百九十四條ニ於テハ賣却ノ時船舶既ニ他人ノ現有ニ歸スルモ仍賣主ノ義務ニ就

キ即チ特權ヲ以テ裝フタル要求權ニ對シ其責ヲ有スルヲ以テ主要ノ例外トス伊國商法第百八十四條ニハ唯此特權ヲ付セラレタル要求權ニ就テ說ク是レ未タ特別ノ例外ニ非ス何トナレハ抑モ動産ニ係リテ特權ヲ與フレハナリ佛國民法第千九十四條以下千八百七十九年白國海上法第一條ニ船舶ニ書入質ヲ許スノ例外アリ和蘭商法第三百九條ニハ讓渡ヲ為スニ書面ヲ以テスハキ一ヲ定ム右ノ諸法ヲ通觀スレハ一二例外ヲ舉ルノ未タ以テ完全ナラサルヲ知ル又個々ノ例外ヲ總括シテ此ニ列記スルモ其宜ヲ得タル

者：非ス故ニ汎ク船舶ヲ以テ動産ト見做シ
特ニ本法中例外ヲ掲クルモノトスルヲ示
スハ最モ其當ヲ得タルニ似タリ而シテ此例
外ハ第八百三十五條乃至第八百四十一條及
第八百四十五條第八百四十六條等ニ之ヲ掲
ク

第八百三十五條 船舶構造ノ契約及ヒ賣買其
他ノ權利行為ニ因リテ船舶ノ全部若クハ股分
ヲ取得スルノ契約ハ特ニ作レル契約證書ヲ以
テスルニ非サレハ之ヲ取結フヲ得ス
相續、結婚其他此類ノ事由ニ因レル船舶所有權
ノ移轉ハ裁判所ノ證書ヲ以テ之ヲ證スルヲ
要ス

動産ハ本來法式ナクシテ賣却スルヲ得但
書面ヲ以テスルヲ必要トスルヲアリト雖モ
通常ハ既ニ義務者ノ署名ヲ以テ足レリトス
（第二百七十七條及第二百七十八條）此ノ如ク
無法式的ナル下ハ船舶ノ賣却ニ於テ許サ、

ルヲ例トシ諸國ノ法律多クハ裁判所又ハ裁判所外ノ公證等ノ如キ特別ノ契約法ヲ定ム
(佛國商法第百九十五條和蘭商法第三百九條
千八百七十九年ノ白國商法第二條)西國商法
ニ至テハ第五百八十六條ニ於テ何レノ場合
ヲ問ハス公認ヲ經ヘキモノトス是レ必要ナ
ラサルニ似タリ英國ニハ千八百五十四年ノ
商船條例第五十五條ニ於テ船舶ヲ賣却スル
ニハ必ス「^コビル、ヲフ、セル」ト稱スル特別ナル
賣買證書ヲ作ルヘシト為ス獨リ獨逸海上法
ハ此ニ例外タリ是レ羅馬法ノ原則ノ專ラ獨
逸ニ行ナハル、ヨリ生シタルモノナリ然レ

凡獨國商法第四百三十九條及第四百四十一條
ニ於テハ近世ノ原則ニ倣ヒ雙方何レモ公認
ノ賣買證書ヲ要求スルヲ得可ク又雙方ノ承
諾ニ依レハ同時ニ現有ヲ移サスシテ契約而
己ニ依リ所有權ヲ移轉スルヲ得ハシトス
是レ近世商法ノ原則ニ依レハ自カラ例トス
ル所ニシテ(第五百三十一條)更ニ之ヲ明言ス
ルヲ要セズ右例規ノ結果タル船舶ノ遠地即
チ航海中ニ在ルモ得テ賣買スルヲ得ルト云
フニ在リ第八百四十一條ハ即チ其一例ニシ
テ右結果ノ緊要ナルモノナリ今特別ナル賣
買證書ヲ作ル可シトノ必要アルカ故ニ書信

ヲ用ユル等無法式ノ賣買ヲ禁ス然レモ不在
者間ノ契約取結ハ仍之ヲ禁セズ何トナレハ
證書ヲ作り之ニ署名スルニハ雙方ノ相會ス
ルヲ要セサレハナリ若シ特別ノ契約書ヲ作
ラスシテ為シタル賣買ハ無効ニ歸ス故ニ之
ニ對シテ故障ヲ申立ルト得ヘシ佛國法律
學ニ於テハ此點ニ關シ他人殊ニ賣主ノ債主
相互ノ間ト契約者ノ相互ノ間トヲ區別シ契
約者ノ間ニ在テハ百種ノ書面約定又ハ書面
證據ヲ許ス(ブラワール商法論第四冊第廿葉
アローセル佛國商法說明第五卷第七十四葉)
然レモ佛國法律ノ文言及其意義ハ右ノ釋明

ニ反シ法官ノ判決モ然リトセス且之ヲ駁ス
ル者亦タ多シ英法ニ依ルモビル、ヲフ、セル
ヲ以ラスルニ非サレハ船舶ノ賣買ヲ為スヲ
許サス同國裁判官ロルド、ストーウエル氏ハ
之ヲ一般是認ノ海上法ノ原則ナリト明言セ
リ(アブボット海上法論第十二版第三葉)又水
案第八百二十九條ニ因ルモ船舶所有權ノ全
部或ハ一部ヲ讓渡スニハ必ス之ヲ船舶登記
簿及登記證ニ記注セサル可ラス然レモ此手
續ヲ踐マサル故ヲ以テ其契約必スシモ無効
ニ歸セス唯タ屬籍ヨリ生スル諸權利ヲ失ヒ
併セテ第八百三十三條ノ罰ニ處セラル、ノ

本條第二段ノ規則ハ契約ヲ以テ船舶所有權
ヲ讓與スルトニ係ラス法律上ニ於テ自然ニ
他人ニ所有權ノ移ルヘキ事實ノ爲メ自然ニ
之ヲ取得スルニ至ルノ場合ヲ論スル者ナリ
例ヘハ先ノ船舶所有者ノ相續人又ハ遺物讓
受人トナリ又ハ婦ノ婚嫁ノ時其夫ニ此ノ如
キ所有權ヲ持參シ又ハ破産管財人トナリテ
破産者ノ名代トナリタルカ如キ是ナリ總テ
此等ノ場合ニ於テモ所有權取得ノ公證書ヲ
受ケサル可ラス證人ヲ以テスルモ新取得者
一方ノ書面ヲ以テスルモ足レリトセス豫メ

故障及不確實ヲ防カン爲メハ相續(遺言書
ノ有無ニ拘ラス)結婚等ノ事實ニ係ル裁判所
ノ公證書ヲ得サルヘカラサルナリ以テ新取
得者ハ此ノ如キ證書ニ基キ登記ヲ請求スル
トシ得ヘシ若夫レ他人就中先所有者ノ債主
ニ對シテ此規則ヲ適用スルハ唯其相續結婚
等ニ因テ取得シタルトシテ證明スルトニ止ル
然リト雖モ其取得ノ本義ヲ云ヘハ必スシモ
裁判所ノ公證書ヲ要セス何トナレハ取得ハ
此ノ如キ事實ニ依リ直接自然ニ成ルモノニ
シテ契約ニ出テサレハナリ千八百五十四年
英國商船條例第五十八條及第五十九條ニモ

右ト類似ノ規則アリ
本條並總テ海上法ノ諸規則ハ擄權ヲ用ル端
舟其他ノ小艇ニハ關セサルモノナリ蓋シ此
小艇ハ何レノ點ヨリ論スルモ動産タルヲ免
レス普通ノ動産所有權ニ係ル原則ヲ以テ論
ス可シ

第八百三十六條 船舶ハ其所有者タラサル者
ニ在テハ所有者ノ明示ノ委任ニ依ルニ非サレ
ハ有効ニ之ヲ賣却スルヲ得ス然レモ船長ニ
在テハ明示ノ委任ヲ受ケサルモ避ク可カラサ
ルニ必要アリテ官ノ證認ヲ經タル場合ニ於テハ
特ニ競賣ヲ以テ有効ニ之ヲ賣却スルヲ得
船舶ハ通常動産ノ如ク非所有者ヨリ賣却ス
ル能ハサルト(第五百二十六條)諸國普ク是認
スルノ例規(ブラワール商法論第四冊第十二
葉以下アローゼー第五冊第二百四葉西國商
法第五百九十二條及第五百九十三條佛國商
法第二百零七條獨國商法第四百九十九條伊

國商法第三百三十四條白國千八百七十九年
ノ高法第二十七條和蘭商法第三百七十六條
アボット高法論第一葉又第五葉以下、シテ
正當ノ方法ヲ以テ得タル船舶ノ現所有者即チ
船長其他船舶ヲ處分スルノ權アルモノト雖
モ有効ノ賣却ヲ爲ス可能ハス此賣却ノ權ハ
眞ノ所有者若クハ之ヨリ委託ヲ受タル者ニ
限り之ヲ有ス蓋シ船舶ハ其價甚タ貴クシテ
通常ノ商品ニ於ル如ク市場ニ於テ賣買スル
モノニ非ス即チ其用タル敢テ賣買ニ在ラス
其所有權ハ必ス證書ニ基ク者ニシテ唯其現
有ノミヲ以テ權利上ノ名稱ト同一視スルヲ

得サルナリ是レ千八百七十一年一月十八日ノ
佛國破毀裁判所判決(ブラワール第十三葉)ニ
於テ明ニ是認スル所ニシテ事ノ自然ニ應ス
ルモノナリ殊ニ船舶ノ所有者ハ之ヲ他人ノ
手ニ付シテ遠航セシメサルヲ得サルト多ク
レハ唯其現有ヲ以テ處分權アリトスヘカラ
サルハ自然ノ勢ナリ
此原則ハ首トシテ船長ニ係リ之ヲ以テ船長
ノ隨意ニ船舶ヲ處分シ其所有者ニ損害ヲ加
ヘ或ハ其販賣ヲ以テ非理ノ利ヲ占メ或ハ法
律上ノ航海職任ヲ免ル、ノ道ヲ塞クニ在リ
船長ハ縱令ニ船舶所有者ノ利益トナルモ(例

ハハ大ニ實價ニ超ヘテ賣却スルカ如シ其委
託ヲ有セサレハ之ヲ賣却ス可ラス即チ損害
或ハ利益ヲ口ニ藉ク能ハサルナリ然リト雖
モ己ヲ得サル必要ノ場合ニ當テハ假令ニ委
任ヲ受テサルモ船長ニ其船舶ヲ賣却スルヲ
得セシムル一諸國ノ法律ニ是認スル所ナリ
其己ムヲ得サル場合トハ無限的或ハ有限的
ノ航海不能力ノ謂ニシテ多分航海ニ於テ覆
没スルノ憂アリ且其修繕ノ費用甚タ大ナル
内是レナリ此外仍船長其修繕ノ費用ヲ調辦
スル能ハサルヤ否ヤ又所有者ト遠ク離レ之
ト信書ヲ通シ其決答ヲ請フ能ハサルヤ等ノ

點ニモ注意スヘシ故ニ船長ハ所有者ノ同意
ニ在ルモ如何ナル事情アルモ船舶ヲ恣ニ
マニ賣却スル能ハサルモナリ而シテ所有
者ハ其事情ヲ證明シ又ハ買主ニ於テ其己ヲ
得サルニ出タル一ヲ證明シ能ハサル時ハ其
不正ノ賣却ニ對シ故障ヲ申立テ其船舶ヲ買
主ヨリ取戻ス一ヲ得可シ
右ノ外各國ノ法律多クハ官署或ハ領事官ヲ
經或ハ少ナクモ鑑定人ノ鑑定ヲ經テ航海不
能力ノ公認ヲ受ル一ヲ必要トス是レ本案ニ
モ採用シタリ故ニ船長ニシテ船舶ヲ賣却セ
ント欲セハ最寄ノ官署ニ至リ其狀ヲ陳述シ

テ筆記セシメ且必要ノ證據ヲ提出スヘシ即
チ船長ニ船舶ノ賣却ヲ許ス前ニ船舶ノ模様
ヲ官署ニ於テ知ラサルヘカラス事機ニ依リ
テハ之ヲ検査セサルヘカラス且船長ハ私ニ
賣却スヘカラス必スマ糶賣法ニ依ラサルヘ
カラス是所有者ノ利益ヲ私スルヲ防カン為
メナリ
航海不能力ニ係ル官認ヲ經サルモ若シ其實
然ルキハ其賣却無効ニ歸スルニ非ズ何トナ
レハ船舶所有者ノ利益ハ實ニ害セラレシニ
非サレハナリ唯タ其舉證ノ義務ヲ船長若ク
ハ買主ニ付スルノニ船舶所有者ニ於テ官署

ノ公認ヲ經タルトニ對シ故障ヲ申出ルハ詐
欺或ハ太過ノ場合ニ非サレハ之ヲ許サズ何
トナレハ此公證ハ已ヲ得サル時機ニ於ル處
分ニ係ルモノニシテ其處分ノ際已ヲ得サリ
シトテ官署ヨリ公證スルニ於テハ既ニ足レ
リ他人若クハ他日其判定ヲ異ニスルトアル
モ之ヲ問フヲ須ヒサルナリ
今ヤ製造中ノ船舶ノ賣却(是レ類々生スルト
ニシテ許ス可キハ勿論タリ)ハ如何ナルモノ
ヤト問題ヲ生ス此問題ヤ若シ其造船家等自
カラ材料ヲ調へ賃錢ヲ拂ヒ自己ノ計算ヲ以
テ製造スル船舶ノ賣却ニ係ルキハ素ト賣却

ノ為メニ製造スルト否トヲ問ハス共ニ容易ニ解釋スヘキナリ
何トナレハ此場合ニ於テ製造者ハ即チ併セテ所有者ナレハ自己ノ所有物ヲ賣却スルニ何等ノ障害ナケレハナリ此ノ如キ賣却ハ供給契約ト視サル可ラス何トナレハ其船舶未タ存在セズ其造成ノ船舶ヲ引渡シタル後ニ非サレハ其所有權買主ニ移ラサレハナリ(本案第五百五十三條佛國民法第千七百八十八條アラワール商法論第四冊第十四葉以下アボット第二葉)故ニ未成船舶ノ賣買ハ船舶製造ノ契約ト同視スヘキ者ニシテ其製造中ニ

破滅シタルニ於テハ賣主タル製造者其損失ヲ負擔ス然レハ製造ノ契約アル船舶ヲ賣却スルト亦タナシトセズ是レ亦タ其性質ヨリ論スレハ供給契約ニ屬シ其製造ヲ依頼シタル人ハ其引渡マテ所有者ニ非ス故ニ本條ニ循ヒ未タ之ヲ賣却スル能ハサルニ似タリ然レハ最初ノ買主ニ於テ未成船舶ヲ賣却スルノ道ヲ與フルハ實際ノ需用ニシテ此ノ如キ賣却ハ之ヲ未必條件アル契約ト視サルヘカラス即チ船舶落成ノ時之ヲ買主(第二ノ買主)ニ交付ス可シト、未必條件アルナリ蓋シ最初ノ買主ニ於テ製造者ニ命シ其船舶ヲ落成

ノ後直ニ第二ノ買主ニ交付セシムルハ一モ
妨ケナシ其船舶落成交付ノ約束(未必條件)既
ニ履行セラレタル内ハ即ケ結約ノ日ニ交付
シタルモノト視做シ最初ノ買主タル第二ノ
賣主ハ之ニ依リテ其船舶ノ所有者トナリ水
條ノ規則ニ適スルニ至ル可シ

第八百三十七條 船舶ノ取得時効ノ期間ハ二
十年トス但船長ハ時効ニ因リテ船舶ヲ取得
スルコトヲ得ス

取時効ノ制ハ取得者惡意ナク權利上ノ名稱
(購買等)ニ依テ物品ヲ取得シ法律上一定ノ期
限間之ヲ現有シタル内其期限ノ經過ヲ以テ
法律ニ適セサル取得ヲ補フヲ以テ目的トス
然リ而シテ其取時効ノ期限ハ物品ノ種類ニ
隨ヒテ異ナリ羅馬法ニ因レハ動産ハ三年不
動産ハ十年若クハ廿年トス此十年若クハ二
十年ノ期限ハ佛國民法第二千二百六十五條
以下ニ於テモ不動産ニ用ユ動産ニ至テハ第

二千二百七十九條：現有ヲ以テ權利名稱ニ
代ユルカ為ノ：取得時効ヲ必要トセストノ
説アリ然レ此説ハ駁論ヲ免レス（ツアハリ
工佛國民法第一卷第五百廿七葉注解四）夫レ
現有而已ヲ以テ惡意ナキト：代ユルハ固ヨ
リ非ニシテ船舶ニ付テハ第二千二百七十九
條ヲ適用ス可ラサルト佛國法律學上ニ於テ
普ク是認スル所ナリ然レ此船舶ノ取得時効
ニ就テハ種々ノ説アリ（アラワール商法論第
四冊第二十八葉及第廿九葉アローセル第五
冊第七十五葉ブーレイバク氏海上商法講義
第一卷第百六十九葉及第三百五十一葉）故ニ

今明文ヲ以テ船舶ノ取得時効ノ如何ヲ定ム
ルハ必要ナリ唯タ普通ノ要件タル現有ノ連
續無惡意及正當ナル取得名稱ハ之ヲ民法ニ
讓ル本案ハ船舶ノ取得時効ノ期限ヲ廿年ト
定ム何トナレハ船舶ハ不動産ニ等シク高價
ナル物件ニ屬シ且其用航海ニ在ルカ為メニ
眞所有者ノ手ヲ離ル、ト多ケレハナリ西國
商法第五百七條ニハ其期限ヲ定テ三十年ト
シ佛國ノ法律學ニ於テモ之ヲ望ムト雖モ是
レ長キニ失スルカ如シ（ベダリト第五卷第
千九百三十一號）其船長ニ取得時効ヲ適用ス
ヘカラサルハ佛國商法第四百三十條及西國

商法ニ於テモ明文アリ其故他ナシ船長ハ所
有者ニ對シテ如何ナル場合ニ於テモ責任ヲ
負ハサルヘカラス長年經過ニ依リ其責任ヲ
免レ其寄託セラレタル船舶ヲ取得スルノ機
ヲ得ヘカラサレハナリ(ベダリト第五卷千
九百三十六號)

第八百三十八條 船舶ノ所有權ハ別段ノ契約
アルニ非サレハ航海ノ為メニ總テノ艦裝
物殊ニ桅檣、帆具、網具、機關、碇、錨、船用器具、端舟、貯
蓄品及ヒ糧食ノ所有權ヲ包含ス但船長又ハ船
員ノ一身ニ屬スル所有物ハ此限ニ在ラス
船舶附属物(アルトナシ)ニ「ア」パレ「イ」アグレ
「イ」ノ稱アリノ旨義ハ船舶所有權ノ如何ナル
物件ニ及フヤノ「イ」ニ係リテ緊要ナル「イ」多シ
即チ賣却及其他ノ取得或ハ保險海損等ニ係
ル賠償ノ場合是レナリ今特別ノ契約アルニ
非サレハ總テ航海ノ為メニ裝置シタル者ハ
船内ニ常存スルト否トヲ問ハス船体(船体)

緊要ナル部分ハ龍骨ナリト共ニ船舶ノ部分
ト見做シ法律上併セテ之ヲ論スルノ一點ニ
就テハ普ク同意スル所ナリ(アボット第三葉
アロ―ゼ―第五冊第十一葉レウ井ス第一冊
第廿二葉獨國商法第四百四十三條)此等ヲ合
セタル船舶ノ全体ハ初メテ航海ニ堪ユルノ
航具トナリ積荷ト相對スルノ稱タリ積荷ハ
船舶ノ部分ニ非スト雖モ船舶ト同一ニ論ス
ルト多シ然リト雖モ各物件ハ何レヲ以テ船
舶ノ附屬物トスヘキヤニ至テハ其說一ナラ
ス本條ハ即チ此ノ如キ疑惑ヲ防カンカ為メ
ニ設ケタリ第一ニ注目スヘキハ其物件苟ク

モ航海ノ為メニ用ユヘキモノナレハ實ニ用
ユルニ非スシテ唯タ要ノ時ニ供スルモノ
タリト雖モ亦タ此ニ算スルト是レナリ故ニ
豫備桅檣豫備帆等ハ既ニ造成シタルト白布
鏡厚板等ノ如ク素品ヲ以テ存スルトヲ問ハ
ス皆ナ附屬物中ノモノタリ之ヲ細録スレハ
端舟亦タ此ニ屬ス何トナレハ是レ陸地及他
船ト交通スル等ノ為メニ欠ク可ラサルモノ
ナレハナリ食料(旅客船ニ在テハ旅客ノ食料
其他需用品例ヘハ寢具布帛類)彈藥(海賊防禦
等ニ供ス)漁具(漁舟トシテ裝備シタル船ニ於
テ)其他運漕船ノ荷揚荷積器具汽船ノ石炭(蒸

氣用機關等皆十然リ又海上ニ於テ修繕スヘ
キ器具材料ノ此ニ屬スルハ勿論タリ
然レ氏航海中ニ用エルモ船舶所有者ニ屬セ
ス船長軍針者水夫又ハ旅客ノ私有タル物件
ハ附屬物ニ算スヘカラヌ時辰儀天文器械望
遠鏡等ノ如キ是ナリ又航海ノ用ニ充ルニ非
ス人ノ嗜好ニ供スル器具即チ書籍喫烟器及
其他類似ノ物品ノ如キ亦々同シ
各場合ニ於テ疑問生スルモ右ノ原則ニ依
ル裁判官ノ判定ニ隨フヘシ運漕及漁業ハ航
海ト相離レサルモノニシテ殆ニト航海ノ全
部ヲ成スモノト謂フ可シ故ニ運漕漁業ノ為

ノニスル機装ハ航海ノ為ニスルモト視
ルヘシ然レ氏學術研究或ハ遊娛ノ為ニス
ル機装ニ在テハ其旅行ノ為ニスル學術上ノ
器械又ハ遊娛ノ物具ハ船舶附屬物ト為ス可
ラス何トナレハ航海ノ目的ト學術研究或ハ
娛樂ノ目的トハ自カラ區別アレハナリ

第八百三十九條 航海中、船舶ヲ讓渡シタル
其航海ヨリ生ズル利益及ニ損失ハ別段ノ
契約アルニ非サレハ取得者ニ移ル

此規則ハ獨國商法第四百四十一條及西國商
法第五百九十五條ニ掲クル所ニシテ英國法
律學ニ於テ是認スル所ナリ(アボット第三
百五十葉)民法ニ因ル時ハ物品賣買ニ依リテ
其物品ニ附着スル物權即チ「セルウ」ヲ
ト或ハ質主權ノ如キハ買主ニ移ル然レ凡人
權即チ其賣リタル物品ニ存ル契約上ノ關係
ニ至ラハ然ラズ例ヘハ土地家屋ノ借料ノ如
キハ別段ノ契約ヲ以テスルニ非サレハ買主

ニ移轉スルナシ(レウ井ス第一冊第廿一葉)
然レ氏運漕賃ハ多少船舶ノ權利ノ一部分タ
ルナ其附屬物件ト相似タリ故ニ運漕賃ハ船
舶所有者ノ船舶ニ係ル義務ニ充ルナシト
セス(第三章)是ヲ以テ運漕賃航海中主スル所
ノ損害モ亦タ船舶トシテ算シ之ヲシテ新取
得者ニ移轉セシムルハ海上法ノ原則ナリ且
運漕契約ハ不可分の契約ニシテ運漕賃ハ
運漕時間ノ割合ヲ以テ拂フ可キ者ニ非ヌ運
漕ヲ終了シ到達地ニ於テ貨物ヲ引渡シタル
後支拂フ可キヲ通例トス又荷主ノ要償第八
百四十九條第十項ハ船舶ヲ相手トスレハ右

ノ場合ニ於テハ買主ニ對スルモノナリ是
由テ之ヲ觀レハ契約者雙方ノ間ニ於テ特約
アルニ非サレハ賣買契約了以後ニ係ルモノ
ニ止マラス全運漕賃ヲ以テ船舶ニ附屬シタ
ルモノト為スハ其當ヲ得タリト謂フ可シ

第四百四十條 任意ニ為ス船舶ノ賣却ハ船舶
債權者ノ債權ニ對シテ船舶ノ負擔スル責任又
ハ其賣買價額ノ負擔スル責任及ヒ讓渡人ノ一
身上ノ義務、變更ヲ生スルヲ無シ強制賣却又
ハ必要賣却ノ場合ニ在テハ船舶ノ負擔スル責
任ハ當然賣買價額ニ移ル

海上貿易及航海ノ契約并ニ其事實ヨリ生
スル要求ハ直接ニ船舶其責ヲ負ヒ為メニ其
船舶ノ何人ノ手中ニ在ルヲ問ハス又負債者
ヨリ他人ニ賣却シタルト否トヲ論セズ船舶
ノ價額ヲ以テ其責ニ當ルヲ普ク是認セラレ
タル海上法ノ原則ニシテ是レ所有者ノ船舶

所有權ノ全部或ハ一部ヲ賣却スルノ權利ヲ
奪フニ非スト雖モ其船舶ヲ以テ自己ノ要求
ヲ充タスヘキ債主ノ權利ハ所有者ノ變換ノ
為メニ變更スルトナシ今如何ナル要求ニ對
シテ船舶此ノ如キ責アルヤノ一點ニ至テハ
諸國ノ法律一ナラス佛國商法第百九十六條及
第百九十六條ニ因レハ船舶ノ賣主タル所有
者ノ債主ノ要求ニ對シテハ總テ船舶其責ニ
當ル其他諸國ノ法律ニハ概テ特權アル要求
(英國之ヲ「マリナム、リレント」云)并ニ書入質
上ノ要求(英國之ヲ「モルトゲ」云)ニ對シ
テ然ルモノトス(アボット第百九十四條獨

國商法第四百四十二條及第七百五十六條以
下伊國商法第二百八十四條白國千八百七十
九年ノ商法第三條和蘭商法第三百十二條乃
至第三百十九條西國商法第五百九十六條乃
至第五百九十九條)本章ハ此點ニ就テ佛法ニ
倣フ然レモ是レ尙第三章ニ細定スル所アリ
本章ハ唯々船舶所有主ノ變換ノ為メニ債主
ニ對スル船舶ノ責任ハ毫モ變スルトナシト
云フテヲ概言スルニ過キス是レ海上法ノ特
別原則ニシテ尋常ノ民法ニ依レハ負債者ハ
皆其債主ニ對シ唯々自己ノ所有物ヲ以テ其
責ニ當リ他人ノ所有物ヲ以テ之ニ當ルテナ

シ唯々詐偽又ハ名義ノミ、ノ賣却ノ場合ハ此
限ニ非ラス此例外原則ハ固ヨリ海上法ニモ
適用ス可キ者ニシテ佛國商法第百九十六條
ニ其明文アリ然レモ是レ言ヲ費ヤサスシテ
明ナル者ナレハ別ニ明記ヲ要セズ船舶ハ終
始賣主ノ負債ノ辨償ニ當ルト雖モ賣主ハ之
カ為ノニ自カラ其義務ヲ免ル、ニ非ス(獨國
商法第四百四十二條)故ニ債主ハ船舶ノ賣却
セラレタルニ拘ラス仍賣主及賣主ノ他ノ財
産ニ對シ要求ヲ為ス得ヘク必スシモ買
主及買主ノ賣リタル船舶ノ價直ニ對シ要求
ヲ為スヲ須ヒス夫レ船舶ノ賣却ハ義務者其

責ヲ免ル、ノ方便トナルヘカラサルナリ
船舶ハ債主ニ對シ其價額即チ賣主ノ手ニ歸
ス可キ代金ヲ以テ其責ニ當ル債主ハ詐偽佛
國商法第百九十六條ノ場合ヲ除クノ外其賣
却ニ故障ヲ述フル能ハスト雖モ其代價ヲ以
テ要求ニ充テントテ請求スルトテ得可シ買
主之ヲ省セズ賣主ニ其代價ヲ支拂フタラン
歟若シ債主ノ其船舶差押ノ處分ヲ仰ク氏ハ
即チ買主ノ不注意ニ歸セサルヘカラス何ト
ナレハ賣却ノ場合ニ於テモ船舶ヲ以テ賣主
ノ義務ニ充ツ可キハ買主自カラ知ラサル可
ラサレハナリ(ベダリード說明第一卷第六十

五葉ブラワール商法論第四冊第卅一葉然レ
氏該權利ハ獨リ其賣買ノ時ヲテニ賣主ノ債
主タリシ者ニ在リ賣買ノ後始テ債主トナリ
タル者ニ非サルト勿論ナリ
右原則ニ例外トスヘキモノハ即チ契約上ニ
於テ船舶ヲ賣却シタルニ非ス法律上ノ強制
即チ裁判所ノ差押或ハ己ヲ得サルモ船長ノ
賣却シタル場合(第八百三十六條)是ナリ(佛國
商法第百九十三條獨國商法第七百六十七條
伊國商法第二百零九條白國千八百七十九年
ノ商法第六條、アボット商法論第六百一葉)又
契約上ノ賣却ノ場合ニ於テモ其賣却ヲ公告

シ債主ノ故障ヲ申立ルトナキ時或ハ債主不
適當ニ長ク要求ヲ延滞シタル時ハ其責任ヲ
免ルトノ例外ヲ立ル法律ナシトモス然レモ
一般ニ是認セラレタル簡單ノ場合ニ其言ヲ
止メ此ノ如キ特別ナル事情ノ効驗ハ之ヲ裁
判官ノ方寸ニ任スルヲ適當トスルニ似タリ
(アローセー第五卷第五十九葉ベタリード第
一冊第百八十四葉)裁判上ノ賣却ニ依リ船舶
ニ係ル債主ノ權利皆テ消失ス可キハ唯タ此
點ニ係ル普通ノ原則ニ依ルノミ而シテ此場
合ト同視ス可キ者ハ避ク可ラサルノ必要ニ
出ル賣却是ナリ何トナレハ此場合ニ於テハ

債主ニ損害ヲ蒙ラシムルノ企圖アルノ謂レ
ナク其代價ハ以テ全ク其不用トナリタル船
船ニ代ハルモノナレハナリ然レモ此ノ如キ
時ハ其代價未タ支拂ハス或ハ獨ニ船長ノ手
ニ存スルノ間債主之ヲ要求スルヲ得可シ

第二節 船舶所有者ノ權利及ニ義務

第八百四十一條 船舶ノ所有權カ二人以上ノ
股分所有者ニ屬スルモハ航海ニ關スル一切ノ
業務ニ付キ其代理トシテ船舶管理人ヲ置ク
ヲ要ス

船舶所有權ハ本來他ノ所有權ト異ナルトナ
シ故ニ船舶所有者ハ隨意ニ己カ船舶ヲ使用
シ若クハ使用セサルトヲ得殊ニ契約其他權
利上ノ取引ヲ以テ自由ニ之ヲ處分スルヲ得
ヘシ以下諸條ノ規則ハ皆航海ノ利益ノ為メ
及船舶所有權ニ特別ナル性質(特ニ共同所有
權)アルカ為メ所有權ニ俾ル普通ノ原則ト多

少背馳スルヲ定ムルモノナリ然レモ本法
中特別ナル例外ヲ定ムルニ非サレハ船舶ニ
就テモ普通所有者ノ權利義務ヲ適用ス可キ
トハ常ニ注意セサルヘカラサルナリ
數人共同ノ所有者ナルノ場合ニ於テ船舶管
理人ヲ置クトハ唯々西國商法第五百八十三
條ニ於テ之ヲ定ムルノニ然レモ是レ汎ク習
慣トナリ事物ノ自然ニ適シ之ヲ以テ法律上
ノ義務トナスモ不可ナルトナシ夫レ船舶ノ
股分所有者ハ稍株式會社ノ株主ニ類スルモ
ノニシテ一モ合名會社ヲ成スニ非ス甲ノモ
ニ代ルトヲ許サス唯々同一物件ニ係ル不可

分的ノ所有者タルニ過キス故ニ惟一ノ代人
欠クヘカラス況ヤ股分所有者ハ單ニ其股分
ノ賣却ニ依リ絶ハス交替シ得可ク且其所有
者各個ニ對シ契約ヲ取結フハ不可成的ノト
タル多キニ於テヤ船舶管理人ハ個々股分
所有者ノ代人ニ非ス其總体ノ代人ニシテ其
務ハ唯々航海ノ營業ニ係ル故ニ股分所有者
ノ義務ハ各其者ニ就テ履行ヲ要求スルヲ得
ヘシ(「レ」ウビ「レ」海上法第一卷四十條以下)
船舶管理人(「アル」マトヨール、ゼラン「レ」コルレス
ボシ「レ」テント、レ「レ」デル「レ」ツアス、バス「レ」バント「レ」ノ
權限ハ第一ニ船舶所有者、與ヘタル委任ヲ

以テ定マラル者シ此ノ如ク明ニ確定シタル委任ナキ時ハ其責任及職權ハ通例左ノ如シ曰ク船長及船員ノ雇入船舶ノ機裝其保存及給養其他航海ニ必要ナルト曰ク運漕契約保險契約ノ取結曰ク船舶證書ノ調整曰ク收入金ノ受領及分配曰ク航海ノ事ニ關シ原告被告トナリ裁判所ニ出テ代理スルト曰ク金錢出納ノ計算及精算曰ク各股分所有者ニ對シ全股分所有者ノ總代殊ニ出金ノ領收及督責是レナリ右ノ外船舶管理人ハ一ニ船舶所有權ノ代人ニ非ス故ニ船舶ヲ賣却シ質入シ或ハ之ヲ抵當トシテ債ヲ興シ或ハ船舶ノ構造或

ハ其用方ヲ變スルト能ハス又別ニ自己ノ代人ヲ居ク能ハサルナリ然レモ職人起業者及船品供給者等ト契約ヲナスハ其權内ニアリ船舶ノ保險ヲ為スルハ法律ニ於テ禁スルモノナキニ非スト雖モ是レ其權宜ヲ得サルナリ(ア)ボウト六十二條以下獨國商法第四百五十九條第四百六十條西國商法第六百十六條以下)

第八百四十二條 所有者ハ船長及シ船員ノ職務施行ニ關スル行為ニ付テハ船舶及シ運送貨物ヲ以テ責任ヲ負フ若シ船長カ同時ニ所有者ナル者ハ船長ハ無限ノ責任ヲ負フ然レモ股分所有者ナル者ハ過失ノ為メ自己ニ不分ノ責任ノ歸セサル者ニ限リ其股分ノ割合ニ應シテ責任ヲ負ヒ尙ホ不足アル者ハ其不足額ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ

通常ノ原則ニ循ハハ船舶所有者ハ自己ノ行為(犯罪及權利上ノ取引)ト其代人ノ行為(代人ノ行為ニ就テ責任ヲ有スハキモ)ニ限リト
ニ就テ自己ノ全財産ヲ以テ其責ニ任ス(第一

編第七章第六節)而シテ所有者ノ其代人ノ行
為・就テ右ノ責任アルハ船長及船員ノ船舶
所有者ヨリ特別ノ委任ヲ受ケ為シタル行為
：就テモ亦々同シ然レ此場合ヲ除クノ外
船長及船員ノ行為：係ル所有者ノ責任ハ有
限(假令船舶上勤務ノ為ノ雇役ハ商業使用
人ノ雇役ト同シク該勤務：係ル委任ト看サ
ルヘカラサルモ)ノモ：シテ通例其船舶及
運漕賃(特別ノ海上財産)即チ其船舶ノ償額及
之：依テ收入スヘキ運漕賃額ヲ限トシテ之
：當リ取テ自己ノ全財産ヲ以テ之：當ル：
非ラス故：船舶所有者ハ其海上財産ヲ債主

ニ放與スル代ハ全財産ヲ以テ負擔ス可キ自
己ノ責任ヲ免ル、下ヲ得可シ此原則ハ他國
ノ法律：於テモ是認スル所：シテ(佛國商法
第二百十六條及千八百四十一年六月十四日
ノ法律獨國商法第四百五十二條白國千八百
七十九年ノ商法第七條伊國商法第三百十一
條和蘭商法第三百二十一條西國商法第六百
二十一條第六百二十二條)他國ノ法律：ハ惟
ニ船長：就テ論スト雖モ之ヲ敷衍シテ牽針
者及他ノ船員：モ通用ス可キヤ疑ナシ又船
舶所有者ノ責任ハ契約其他ノ權利上ノ取引
并ニ禁止ノ行為即チ犯罪又ハ犯則(例ハ稅

別ヲ犯ス等)ニモ及フモノナリ然レモ此責任ハ船員ノ職務範圍内ニ歸スル行為ニ限リ船長等ノ自己ノ為ニ為ス所ノモノ及隨意ニ法律ヲ犯スノ行為ニ至リテハ所有者ノ負擔シ能ハサル所ナリ何トナレハ船長ノ其所有者ニ代ルハ其委任セラレタル船舶ニ係ル權利及義務ニ限ルモノナリ故ニ其名代スル所ハ獨リ航海ノ事ノニ止ラス旅客及積荷ノ經畫其他ノ事務ニ涉ルモノナリ又船舶所有者ノ責任ハ全ク民法上ノ責任ニシテ教唆等ニ依リテ自カラ共犯タルニ非サレハ必スシモ刑法上ノ責任ヲ負フナク又船長

ト共ニ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ其民法上ノ責任ニ當ルナシ例ハ船長ト謀リ關稅ヲ逋シタルカ為メニ荷物ノ差押ニ處セラレタル荷主ニ對スルカ如キ是レナリ(アローゼイ第五卷百二十一葉以下「ベタリ」ト第一卷第三百二十七葉「アボット」第八十四葉第三百四十葉「レウビー」第一卷第三十四葉英國ノ法律ニ依レハ罪過アル場合ヲ除クノ外代人ニ係ル普通ノ原則ニ循ヒ船舶所有者ニ無限ノ責任アラシムルヲ以テ通規トス然レモ此責任ハ法律ヲ以テ種々ニ制限シタリ(千八百五十四年ノ商船條例第五百三條以下及千八百六

十二年七月二十九日ノ同改正條例第五十四條以下今運漕賃トハ其責任ノ生シタル航海ノ運漕賃ヲ云フ故ニ其以前ノ利益及該船舶ヲ以テ後來得可キノ利益ハ此ニ算セス積荷ハ假令ニ船舶所有者ニ屬スルモ右責任ニ充ツヘカラス其他保險額モ亦タ同シ(ベダリ)ト商法第一卷第三百五十八條第三百五十九條白國千八百七十九年ノ商法第七條)數人ノ股分所有者ハ各其股分ニ應スル船舶及船賃ノ一部ヲ以テ其責任ヲ負擔シ其股分ヲ放與シテ自己ノ責任ヲ免ル、¹ヲ得可シ而シテ假令ニ船舶沈没スルモ為メニ區別アルト十

ク又其船舶ヲ保險者ニ放與シタルニ於テハ所有者ノ義務其保險者ニ移リ保險者ハ或ハ其負債ヲ拂ヒ或ハ船舶ニ運漕賃ヲ添テ債主ニ引渡サ、ルヲ得ス(アローゼイ第五卷第三百三十二條第三百三十四條)

戰時私有ノ巡掠船艦裝ニ就テ船長及船員ノ行為ニ係ル所有者ノ責任ニ例外ヲ立ルノ法律アリ以テ其責任ヲ所有者ヨリ納レタル保證金ノ額ニ止ム(佛國商法第二百零七條伊國商法第三百十二條)夫レ私有巡掠船ノ艦裝ハ近世ニ至リ益々減シ且強國多數ノ協議ニ出ル千八百五十六年巴里公布ヲ以テ之ヲ禁シ

タルカ故ニ本條ハ白國千八百七十九年ノ高
法ニ於ル如ク之ニ就テ論スルトナシ
船舶所有者併セテ船長タル時ハ船舶及運漕
貨ヲ以テ限トスルノ責任ハ適用スヘカラス
何トナレハ是レ他人ノ契約罪過ニ對スル責
任ニ係ルニ非ス一モ代人タル關係存セサレ
ハナリ然レモ船長唯々股分所有者ナル時ハ
股分所有者トシテハ唯々自己ノ股分ノ割合
ニ隨ヒ責任ヲ負フト勿論ナリ何トナレハ他
ノ股分所有者モ同シク其割合ヲ以テ其責ニ
任スレハナリ但各股分所有者ノ責任ニシテ
充分ニ賠償スルニ足ラサルキハ更ニ船長ト

シテ其不足額ニ對シ無限ノ責任ヲ負フモノ
トス若夫レ船長罪過アルニ方テハ假令ニ股
分所有者タリトモ其全責任ヲ擔當シ其損害
ヲ充分辨償セサルヲ得マ何トナレハ罪過ニ
出ルノ責任ハ之ヲ他人ニ分擔セシムルト能
ハサレハナリ(白國千八百七十九年ノ商法第
七條第三段)

第八百四十三條 所有者ハ船長ヲ任シ又隨意
ニ之ヲ免スルヲ得又書面ノ契約アルニ非サ
レハ船長ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セス
是レ佛國商法第二百十八條伊國商法第三百
十三條千八百七十九年ノ伯國商法第八條及
和蘭商法第三百二十八條ニモ掲ル所ニシテ
船舶所有權及代人雇入ノ意義ヨリ自カラ生
スルモノナリ
之ヲ明言スルモノハ契約ヲ以テ時間ヲ定ム
ルニ放免解雇權利ノ放棄ヲ以テスルモ解雇
ヲ防遏ス能ハサルヲ示サン為メナリ是ヲ
以テ航海前若クハ航海中ノ解雇權放棄ハ其

効力ナシ而シテ船長ハ契約ニ反シ又相當ナル原因アラサルニ解雇セラレタルモ之カ為
ノニ要償スルヲ得ス(是レ船員ト異ナル所ナリ)此ノ如キ所有者ノ權利ハ船舶ノ指揮者ニ委任セラレタル利益ノ重大ニシテ船長ノ地位ヲシテ特別信用上ノ地位タル觀ヲ呈セ
シムル為メニ必要ナリ

船長ノ賠償ヲ要求シ得ルハ之ヲ特別ニ書面ヲ以テ明約シアル時ニ限ル雇入契約書アルニ賠償ノ細條ヲ掲ルニ非サレハ未タ以テ其要求ノ原因トスルニ足ラス(バダリート)第一卷第三百七十三葉)然レモ佛國ノ法律ニテハ

船長航海前其機装ノ為メニ勞シタル報酬其航海中ニ解雇シタル場合ニ於テハ定撃港マ
テノ旅費ト既ニ得ヘキノ給料及其他ノ收入トヲ要求スルノ權ヲ與ヘタリ(アラワール)商
法論第四卷第百六十三葉佛國千八百六十年四月七日ノ布達第十一條及第十四條)獨國商
法第五百十五條以下ニ於テハ右ト異ニシテ
船長ノ為メニ一層利益アル規則ヲ掲ク

第八百四十四條 船長カ同時ニ股分所有者ナ
ル場合ニ在テ其意ニ反シ罷免セラレタルキハ
自己ニ屬スル股分ノ價額ノ支拂ヲ求ムルヲ
得但其價額ハ鑑定人ノ鑑定ニ從フ

船長ハ其船舶所有權ニ股分ヲ有スルキト雖
モ隨意ニ之ヲ罷免即チ之ヲ解雇スルヲ得然
レモ是レ其船長船舶所有權全部ノ半額以上
ヲ有セサルキニ限ル何トナレハ船長ニ對シ
テ多數決ヲ得ルヲ能ハサレハナリ又此ノ如
キ解雇ニハ第八百四十五條ニ從ヒ必スシモ
他ノ股分所有者一同ノ同意ヲ要セス唯々多
數決ヲ以テ足レリトス(テ)ラワール「第四卷第

百六十五葉「ベダリート」第一卷第三百八十一葉
唯々重大ノ場合ニ於テ裁判所ノ裁可ヲ要ス
ヘキ場合ニ於テハ此限ニ在ラス而シテ其解
雇セラレタル船長ハ他ノ股分所有者ト同シ
ク其股分ヲ保續スルモ又之ヲ賣却スルモ勝
手タリト雖モ船長ニハ其所有權ヲ拋棄シ其
股分ノ價額ノ支拂ヲ他ノ股分所有者ニ要求
シ得ヘキ特別ノ權利ヲ與フ此場合ニ於テ此
支拂價額ヲ負擔スヘキモノハ即チ全股分所
有者ニシテ獨リ多數決ノ人員ニ止マラス船
長ニ此ノ如キ權利ヲ與フルハ解雇ハ實際其
心ヲ病マシメ且其股分ヲ所得シタルモ唯々

船長ノ地位ヲ得ントスルニ出ルテ多クレハ
ナリ「ベダリート」第一卷第三百八十一葉然レ
氏船長ハ隨意ニ後日ニ至リ此權利ヲ執行ス
ルヲ得ヌ其解雇ノ後相當ノ期日内ニ之ヲ執
行セサルヘカラサルト勿論ニシテ苟クモ然
ラス以テ事實上ニ於テ通常ノ船舶所有權
ル資格ニ安シタル氏ハ此權利ヲ失ナフ「ベ
ダリート」第一卷第三百八十四葉若シ船長唯
々其股分ヲ賣却セント欲スル時ハ他ノ股分
所有者ニ於テ先買權ナキモノトス「デラワー
ル」第四卷第百六十五葉佛國商法第二百十九
條獨國商法第五百二十二條

第八百四十五條 二人以上ノ股分所有者ノ間

ニ在テハ船舶ニ關スル總テノ事件ハ議決權ノ

過半數ヲ以テ決定ス其過半數ハ各所有者ノ股

分額ニ從ヒテ之ヲ算ス

過半數ノ決議ヲ得ルニ至ラサルハ議決權ノ

半數ノ決議ヲ以テ船舶ノ競賣ヲ求ムルヲ得

或ル股分所有者カ必要ナル新支出ニ同意セザ

ルハ其所有者ハ自己ノ股分ヲ他ノ股分所有

者ニ委付シテ賦課金ノ義務ヲ免カル、トヲ得

但股分額カ賦課金ヲ超ユルハ其超過額ノ支

拂ヲ受クルトヲ得

凡商船ハ一人ニ屬セス許多ノ共同所有者ニ

屬シ其船舶ノ所有權ヲ數多ノ股分ニ分ツト
多シ而シテ此股分ノ數ハ法律ヲ以テ定ムル
トアリ(例ハ英國ニテ六十四)或ハ習慣ニ循
フトヲ得(佛國ニテ二十四)此股分所有者ノ間
ニハ唯々共有ノ關係アルニ過キスシテ高社
其他抑モ會社ヲ成スモノニ非ス故ニ其間ニ
會社契約ノ存スルヲ必要トセス何レノ股分
所有者モ他ノ股分所有者ニ代ハリ若クハ船
舶全部ヲ處分スルノ權ヲ有セス又何レノ股
分所有者モ他ノ股分所有者ト一致不分ノ義
務ヲ有セス隨意ニ退去シ自己ノ股分ヲ賣却
シテ繼續者ヲ以テ代ユルトヲ得可シ又他ノ

一方ニ於テハ羅馬法ニ於ルカ如ク共同所有
權ヲ廢スルトヲ要求シ全部ノ賣却ヲ以テ自
己ノ股分ノ價額ヲ拂受ルヲ得ヘキ共同所有
者ノ權ヲ有セス以テ股分所有者ノ間ニ於ル
權利上ノ關係ハ其取結タル契約ニ由テ論シ
此點ニ付テ一モ法律上ノ章制ヲ蒙ルトナキ
ラ普通ノ原則トス(獨國商法第四百五十七條
「バカリート」第一卷第三百八十七條「アロ
イ」第五卷第百五十葉「アボット」商法論第五十
八葉)而シテ此契約ハ特異ナル性質ヲ有シ唯
タ其契約ヲ結タル當初ノ契約者間ニ守ルヘ
キニ止ラス併セテ後日ノ繼續人モ自カラ之

ヲ守ルノ義務アリ故ニ多少株式會社ノ申合
規則ニ類シ船舶管理人ハ株式會社ノ社長ニ
似タリ(「リウビ」第一卷第四十五葉)但タ後日
此契約ヲ共有者ニ於テ廢止又ハ變更スルハ
妨ケナシトス然レモ其共有者ノ間ニ別段契
約ヲ結ハスシテ其權利上ノ關係ヲ全ク法律
ト習慣トニ任放スルト甚シトセズ殊ニ互ニ
相識ラス遠隔ノ地ニ住居スル許多ノ共有者
間ニ在テハ契約ヲ取結フト甚タ困難ナルノ
ニテラス或ハ成ル可ラサルトアリ故ニ法律
ニ於テ許多ノ共有者間ノ權利ヲ判定スハキ
概要ノ原則ヲ定ムルハ必要ナリトス

水峯ニハ船舶股分ノ數ヲ法律上ニ定ムルト
ナク之ヲ後來生ス可キ習慣及國民ノ思想ニ
任放ス佛國ニ於ル如ク二十四ノ數ハ固ヨリ
少ニ過ク何トナレハ小ナラサル船舶殊ニ汽
船ニ在テハ之カ為メ其持部ノ額甚タ大
ニシテ少ナクモ數千弗ニ上リ船舶ノ所有權
ヲ得ルハ獨リ富有ノ金主ニ止ルニ至レハ十
リ六十四ノ數ハ稍適當ナルカ如シト雖モ是
仍少ナキヲ免レス實際交通上ニ甚便利ナリ
トス可ラス蓋シ其數ヲ百ト定ルハ日本ノ情
態ニ於テ最モ適當ナル可シ夫レ船舶ノ股分
ハ(殊ニ獨逸ノ濱海都府ニ於テハ)船舶ヲ製造

セシメント欲スル者概子自カラ其船長トナ
ルノ企望ヲ以テ之ヲ知己其他ノ人ニ謀リ
金ヲ集ムルヲ以テ起ルト多ク以テ其加
造船及職装ニ係ル工事或ハ其材料ノ供給
以テスルト少ナカラス故ニ獨國ニ於テ
股分ノ額及數ヲ定ムルトナク船ニ依リテ
分ノ額及數各異ナルヲ得其數ハ千乃至數
ニ達スルトナシトセス然レ氏一人ニシテ
多ノ股分ヲ有シ或ハ數人ニシテ一箇ノ
ヲ共有スルモ妨ケナシ以テ此共有ノ場
於テハ一人ノ總代ヲ以テ代人タラシム
英國千八百五十四年ノ商船條例第三十七條

千八百八十年八月二日ノ同改正第二條
總テ船舶ニ關スル事件ハ總人員ノ同意ヲ以
テ決スルヲ要セス過半數ノ可決ヲ以テ足レ
リトシ其可否決ノ數ハ人員ノ數ヲ以テ算セ
ス各人員ノ股分ノ數ニ依リテ算スルト普通
ノ例規ナリ故ニ百箇ノ股分アルニ五十一ノ
股分所有者又二十四ノ股分アルニ三十三ノ股
分所有者又二十四ノ股分アルニ十三ノ股分
所有者同意シタル決議ハ有効ニシテ他ノ股
分所有者之ニ從ハサルヘカラス又人員ノ數
ハ一ニ之ヲ問フトナク假令ヒ一人タリトモ
全股分ノ一半ニ超ユル股分ヲ有スルモ亦

タ右ニ同シ(佛國商法第二百二十條獨國商法第四百五十八條伊國商法第三百十五條千八百七十九年白國商法第十一條和蘭商法第三百二十條西國商法第六百九條)英國ニ於テモ右ノ主義行ハル、ト雖モ少數ノ股分ヲ保護セシメ爲シ少數ニ一定ノ權利ヲ與フ(アボット)商法論第五十九葉)又可否同數ニ分レ或ハ三說以上ニ分レ何レモ過半數ヲ得ル能ハス或ハ共有者二人ニシテ各其一半ヲ所有スルキノ如ク抑モ過半數ヲ得ルノ道ナキトナシトセス此場合ニ於テハ第二段ノ規則ヲ適用ス可シ即チ半數ノ同意アレハ船舶ヲ賣却セサ

ルヘカラス是レ所有者ノ間ニ共同一致ノ行ハレサル中ハ其共同ヲ解クヲ以テ最モ宜シトスルニ出ル所ナリ又第二百二十六條ニ從ヒ合名會社ニ於ル如キ總社員ノ承諾ハ此ニ之ヲ要セス何トナレハ船舶ノ共有ハ會社ヲ成スニ非ス總人員同意ヲ以テ取結ヒ他日ノ不和ヲ制止スル所ノ契約ニ基キ成立キタルヲ要セサレハナリ然レ氏解散ノ同意者半數ニ滿タサル時ハ抑モ有効ナル決議ニ非ス此ニ至テ如何ナル結果ニ至ルヘキヤノ問題アリ即チ可否相半スルキハ否說ニ從フトノ原則ニ依リ舊ノ如ク存シ更ニ船舶ノ改正變更ヲ

加フ可ラストスヘキヤ將々航海即チ其水來
ノ目的ニ供用セシト欲スル者ヲ上トスハキ
ヤト云フ是レナリ後日ノ意見ハ主トシテ往
時ノ海上法ニ行ナハレ近世ニ於テハ其多數
決ノ原則ノ為ニ壓倒セラレタリト視サル
ヘカラス故ニ過半数ヲ得サル成ハ一モ新事
ヲ行ナフ能ハサルナリ(ベダリト第一卷第
三百九十四葉以下)

然レ氏多數決ハ唯々船舶ニ係ル事件即チ總
テ船舶所有者ノ船舶所有者タル點ヨリ關係
ヲ有スル所ノモノニ就テ効力アリ他ノ事件
ニ至リテハ假令ニ船舶ニ關係ヲ有スルモノ

タリトモ然ラヌ又船舶ノ所有ニハ併セテ投
機其他ノ商業取引ヲ含有スルモノニ非ス故
ニ船舶所有者ヲシテ強ヒテ積荷ヲ為サシム
ルヲ得ヌ(アラハール第四卷第百六十七葉及
第百七十葉)且各員ハ他ノ共有員ヨリ強テ共
ニ其股部ヲ保險セシムルヲ得ス何トナレ
ハ所有物ノ保險ハ常ニ所有者ノ隨意ニ任ス
ハキモノナレハナリ(ベダリト第一卷第
百二十八號及第三百三十號)其他船舶ノ賣却
ハ前ニ記スル例外ヲ除クノ外多數決ヲ以テ
之ヲ強ユルヲ得ス何トナレハ是レ船舶ニ關
スル事ニ非スシテ所有物ノ存否ニ係リ所有

物ノ拋棄ハ他人ノ強ユル能ハサルモノナレ
ハナリ故ニ多數決ノ効力ハ唯タ船舶ノ經理
ニ係ルノミ^(一)「ベダリート」第一卷第三百四十六
號

今ヤ會議ニ於テ少數トナリタル者ハ多數決
ノ為メニ其船舶所有權ニ賦セラレタル費用
ヲ負擔セサルヘカラサルマノ問題アリ此費
用ハ其議決シタル事業ノ成績即チ修繕等ヨ
リ生スル利得ヲ以テ償ナフヲ例トスト雖モ
其利益ヲ得ルマテ其出費ヲ負擔シ財産ニ重
キ減殺ヲ加フルトアリ又其期シタル利益全
ク空シキトアリ^(二)例ヘハ其船舶後日ノ航海ニ

於テ沈没シタルカ如シ其他所有者ノ内資力
乏シクシテ自己ニ賦セラレタル出金ヲ負擔
スルノカヲ有セサル者ナシトセサルナリ
此問題ニ付テハ各國ノ法律一ナラス種々ノ
規則アリ佛國商法ハ此點ニ就テ直接ニ定ム
ル所ナキカ為メニ少數ノ者百種費用ヲ共擔
セサルヘカラサルトハ其多數決ニ從フヘシ
トノ辭ノ中ニ含有スルモノトセサルヲ得ス
然レモ其費用必要ノ程度ヲ超ユヘカラサル
トヲ定ム故ニ船舶ノ修繕等ハ鑑定人ヲシテ
評定セシメ最低價^(三)「ラーベイト」ノ請負人ニ之
ヲ任セサルヘカラス^(四)「ベダリート」第一卷第三

百二十六號及第三百二十七號「ブラワール」第
四卷第百六十七葉「ブール」海上商法第
一卷第三百四十葉及第三百四十一葉「往時」
海上法、於テハ此意、於テ右ノ問題ヲ判シ
實ニ航海ノ利益並ニ共有者多數ノ利益ニ適
スルモノナリ和蘭商法第三百二十二條乃至
第三百二十四條及西國商法第六百十六條、
於テモ亦タ類似ノ規則アリ佛國商法第二百零
三十三條及千八百七十四年十二月十日ノ船
舶書入質法律第二十八條、依レハ船長若ク
ハ船舶管理人ハ共有者ノ負擔スル出金ヲ怠
ルハハ負債ヲ起シテ之ヲ補ヒ其共有者ノ股

分ヲ書入質ト為ス「得然」之ニハ裁判
所ノ許可ヲ要ス又蘭國ノ法律ニ從ハハ股分
ハ出金ヲ怠リタル者ノ義務ニ充ツ可キモノ
ニシテ殊ニ其商法第三百二十四條ニ依レハ
出金ヲ怠リタル者ハ他ノ共有者ノ為メニ自
己ノ股分ヲ放棄シ其股分ノ價額ハ鑑定人ヲ
シテ評定セシム獨國ノ法律商法第四百六十
七條第(四)百六十八條ニ依レハ他ノ共有者ハ
出金ヲ怠リタル者ノ為メ前貸ヲ為シ其者ノ
股分ヲ以テ自カラ償ナラ「得」又少數者ハ
其出金ヲ逃レシ「為」自己ノ股分ヲ無償ニ
テ拋棄スル「得」而シテ其股分ハ他ノ

共有者ニ同一ノ割合ヲ以テ配分ス而シテ獨
國ニ於テハゼツツンクスレヒトナルモノ行
ハル、ノ地方アリ此法ニ依レハ豫メ船舶ノ
價額ヲ定メ多數ノ者相當ノ賠償ヲ少數ノ者
ニ與ヘ右ノ價額ニ依リ船舶ヲ引受ケ或ハ多
數ノ者ニ賠償ヲ與ヘテ少數ノ者船舶ヲ引取
ルノ權ヲ有ス

英國ニテハ多數者ノ權此ノ如ク大ナラス多
數決ヲ以テ新事業ヲ起スハ妨ケナシト雖モ
其費用ハ同意者ノニニ於テ支辨セサルヲ得
ス且少數者ノ股分ノ價額ヲ保證シ若シ損失
アル場合ニハ之ヲ賠償セサル可ラス少數者

ハ其事業ノ費用ヲ出スノ義務ナク隨テ其利
益ニ加ハルヲ得ス「アボット」商法論第六十
葉「スミス」第百九十葉而シテ此ノ如キハ總
テ海上裁判所ヲ經テ之ヲ為ス

一方ニ多數者ヲシテ全ク少數者ヲ擯斥スル
ノ權アラシシ他ノ一方ニハ少數ヲシテ不同
意ノ為メニ其責任ヲ免レシムル所ノ英國法
律ノ原則ハ模範トスヘカラサルカ如シ不同
意ノ少數ヲシテ毫モ賠償ヲ受ルナク其股分
ヲ拋棄セシムル獨逸法律ハ嚴ニ過ク況シヤ
共有者中ニハ新費用ヲ支出スルノ力ナキ貧
困者アリ其不同意ノ為メ其從來ノ所有物ヲ

併セテ失ナフニ至ルヲアルニ於テラヤ是ヲ以テ亦案ハ佛國ノ規則ヲ採用シ共有者ノ股分ハ總テ之ニ賦セラル、負擔ヲ引受ケ共有者ノ意ニ反スルモ其股分ノ價額ヨリ負擔部分ヲ扣除スルモノトス唯タ其股分ヲ抵當トシテ負債ヲ起スニ至テハ本案之ヲ採ラス何トナレハ修繕ノ費用股分ノ現價ニ超過スルニ至テ右ノ如キニ不成的ナルトアリ他ノ共有者自ラ該費用ヲ支辨スルノ意アルニハ右ノ如キニ必要ナラサルトアレハナリ故ニ本案ハ他ノ共有者ニ該股分ヲ自己ニ引取り之ヲ賣却或ハ書入シテ必要ノ金額ヲ得ルノ

權アラシム其新費用甚大ニシテ股分ノ全價額ニ滿ツキハ該股分所有者一モ賠償ヲ得ルトナシ然レモ若シ剩餘アレハ之ニ拂戻サ、ルヘカラス何トナレハ其股分ノ價額ハ該所有者ノ所有物ニシテ其負擔ス可キ出金ニ超ヘテ之ヲ扣除スルノ理ナケレハナリ股分所有者其股分ヲ拋棄シタル以後ハ總ヘテ他ノ義務ヲ免レ隨テ其後ノ利益配分ヲ要求スル能ハス既ニ本案第二百十四條及第二百十五條ニ於テモ出金延滞ノ株主ニ關シ之ニ類スル規則ヲ掲ゲタリ此規則ヲ設ケタルハ獨リ各共有者ノ資力乏シキカ為メニ船舶ノ使用

ヲ止ムルトテ防ク所ノ國民航海上ノ利益ノ
為メニ止マラス併セテ共有者多數ノ財産ヲ
少數ノ為メニ喪失シ若クハ減殺セル、ト十
カラシムル所ノ多數者ノ利益ノ為メニスル
モノナリ故ニ共有者ニシテ其義務ヲ盡ス能
ハス又ハ欲セサルカ為メニ多數者ニ損害ヲ
蒙ラシムル者ハ自己ノ股分ヲ之ニ讓與セサ
ルヲ得サルナリ

第八百四十六條 各船舶所有者ハ總テノ費用
及損失ヲ扣除シタル後ニ非サレハ航海ニ因リ
テ生スル利益ヲ請求スルノ權利ナシ

本章第百五十三條及二百十九條ニ於テモ既
ニ商社ニ關シ此規則ヲ定ム數多ノ共有者ハ
集テ商社ヲ成スニ非スト雖モ其船舶ハ統一
ノ經理ヲ受ク(第八百四十一條)此經理ノ為メ
ニハ各共有者ノ共ニ守ルハキ原則ヲ定ムル
ト必要ナリ此原則トハ各共有者ノ股分ハ之
ニ歸スル義務ノ引當トナリ總テ借方ヲ辨償
シタル後ニ非サレハ利得ノ分配ヲ受ルヘカ
ラサルト是レナリ蓋シ此原則ノ實行アリテ

初メテ秩序アル堅固ノ經理アリ且此規則ハ
仍間接ニ船舶管理人ヲシテ船舶ノ債主ニ對
シ責任アラシメテ以テ其債主ニ支拂フヘキニ
定メタル金額ヲ怠慢又ハ惡意ヲ以テ股分所
有者ニ配付シタルニ於テハ其責ヲ免ル、能
ハス故ニ船舶管理人ハ豫メ船舶債主ノ為メ
ニ準備スヘキ金額ヲ扣除シタル後ニ非サレ
ハ所有者ニ支拂フヘカラス(獨國商法第四百
六十九條)

第八百四十七條 股分所有者ハ他ノ股分所有
者又ハ船舶管理人ノ承諾ヲ受ケスシテ何時ニ
テモ自己ノ股分ヲ自由ニ讓渡スルヲ得
第八百四十八條 船舶股分ノ所有權ノ移轉ニ
因リテ船舶カ其國籍ヲ失フ可キハ他ノ股分
所有者ハ右ノ股分ヲ自己ノ計算ニ引受ケ又ハ
其股分ヲ所有スル資格アル者ニ競賣センルヲ
求ムルノ權利アリ但自己ノ計算ニ引受クル場
合ニ在テ乙ムヲ得サルキハ裁判上ノ手續ヲ以
テ其股分ノ價額ヲ定ム
船舶所有者ハ皆隨意ニ其所有物ヲ賣却スル
ルヲ得其股分所有者ノ股分ニ於ルモ亦然リ

(第八百四十七條)其外國ニ賣却スルモ禁スル
所ニ非ス唯タ之ヲ防クモノナケレハ船舶屬
籍ノ資格ヲ喪失ス(第八百二十八條)然レ氏數
人ノ股分所有者ナル場合ニ於テハ其屬籍ノ
喪失ハ即チ他ノ股分所有者ノ損失或ハ少十
クモ其從來ノ屬籍權ノ犯凌ニシテ其一人ノ
行為ニ起因スル損失ヲ他ノ股分所有者ニ甘
受セシムルノ理ナシ且之ヲ甘受セシメサル
ハ併セテ國ノ利益タリ何トナレハ一部分ノ
外國所有ニ歸シタルカ為メニ本國航海ノ減
殺スルハ喜フヘキニ非サレハナリ是ヲ以テ
公益ト他ノ股分所有者ノ利益ノ為メニハ正

當ノ方法ニ由テ其國民ノ所有船舶ヲ維持ス
ルヲ得セシムルヲ必要トス本案ニ於テハ此
必要ニ應スル下ノ規則ヲ以テス曰ク他ノ股
分所有者ハ賣主ノ意ニ拘ハラサル法律上ノ
先買權ヲ有シ其價額マ實價額ヲ以テシ虛構
或ハ不當ノ價ヲ以テスルヲ得セシメスト曰
ク他ノ股分所有者中該股分ヲ引受ルヲ欲セ
ス或ハ得サル時ハ之ヲ糶賣ニ付スルノ權ヲ
有ス可ク但タ屬籍權ニ害ヲ及ホサル人即
チ日本人若クハ日本會社ニ賣渡ス可キハ勿
論ナリト總テ此場合ニ於テハ其賣却シタル
股分ノ多サハ之ヲ問フナシ例ヘハ一人ニ

シテ全船舶ノ八分七ヲ所有シ他ハ僅ニ八分
ノ一ヲ所有スルトセシ歟其多數ノ股分タリ
トモ少數ノ股分ニ與ヘタル特權ニ服從セサ
ルヲ得サルハ怪ムヘキノ觀アルカ如シト雖
モ股分大小ノ差ヲ定ムルハ殆シト難ク且屬
籍ノ公權ハ私法上ノ所有權ノ上ニアルヘキ
ナリ又本條ハ契約上ノ賣買ニモ相續結婚等
ノ自然ノ移轉ニモ適用ス可キモノニシテ自
然ノ移轉ノ場合ニ於テ新取得者ハ其所屬ト
ナリタル股分ヲ自己ノ計算ヲ以テ賣却シ得
ルノ權ヲ有スルト既ニ第八百二十八條ニ說
明セリ

往時ノ法律ハ此點ニ就テ異同アリ佛國商法
ニハ一モ之ヲ論スルトナク但タ第二百二十
條第三項ニ共有者半數以上ノ請求ニ依ラサ
レハ船舶ヲ糶賣スルトヲ得ストスル規則ヲ
此ニ適用シ得ヘキノミ然リト雖モ佛國ノ法
律ニ依レハ抑モ船舶所有權ノ一半迄ハ外國
人ノ所有ニ屬スルトヲ得ルモノナリ本案ニ
於ケルカ如キ特權ハ西國商法第六百十二條
ニ於テ契約上ノ賣却ニ在テハ三日以内ニ賣
行スヘキモノトシ其五百八十四條ニ於テ自
然ノ移轉ノ場合ニ於テ其賣却ノ義務ヲ履行
セサル者ニ沒收ノ罰ヲ加フ英國ニ於テモ亦

然リ(千八百五十四年ノ商船條例第六十二條ヨリ第六十四條マテ)獨國商法第四百七十一條ニハ共有者ニ法律上ノ先買權ヲ與ヘス然レ氏其契約ヲ以テスルハ禁スル所ニ非ス(口ウ井ス)海上法第一卷六十七葉又右ノ場合ニ於テ共有者他ノ共有者ノ承諾ヲ經スシテ其股分ヲ賣却スルモ無効トス加之此賣却ヲ禁スルノ邦(獨逸各邦)亦十シトセス亦案ノ規則ハ此ノ如ク種々ナル法律ニ比シテ最モ簡單且適當ナルモノニシテ殊ニ所有權ヲ妨クル事最モ少ナシ

第三章 船舶債權者

第八百四十九條 船舶ハ第三者ノ占有ニ在ル片ト雖モ其附屬物及ヒ未收ノ運送債ト共ニ左ニ掲クル債權ノ為メ以下ノ順序ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第一 船舶ノ強制賣却及ヒ其賣却金ノ分配ニ係ル裁判上其他ノ費用、強制賣却ノ開始以來船舶及ヒ附屬物ノ監守并ニ保全ノ費用

第二 船舶航海ノ諸稅即チ港稅、噸稅、燈臺稅

其他ノ稅

第三 入港以來船舶及ヒ附屬物ノ保全ノ費用

用、水先案内料及ニ挽船料

第四 最後ノ航海中、大海損及ニ救援、救撈

其他救助ニ付テノ費用

第五 最後ノ雇入契約期間中其契約ヨリ生

スル船長及ニ船員ノ債權

第六 最後ノ航海中船舶ノ需用ノ為ノ船長

ノ為シタル借入ニ付テノ債權及ニ同一ノ

目的ノ為シ船長ノ賣却シタル積荷、船長ニ

渡シタル物若クハ給シタル勞役ニ付テノ

求償權

第七 未タ航海ヲ為サ、ル船舶ノ賣却、構造

又ハ艤裝ヨリ生スル債權并ニ勞役賃及ニ

最後ノ航海ノ為ニスル修繕、艤裝又ハ糧

食準備ヨリ生スル債權但出港セサル前ニ

限ル

第八 船舶ノ構造又ハ艤裝ノ為ノ消費、貸

ヨリ生スル債權及ニ船舶カ未タ引渡サレ

サル間ハ自己ノ計算ニテ構造セシムル者

ノ為シタル代價割拂ニ付テノ債權

第九 最後ノ航海又ハ最後ノ保險料支拂期

間ニ係ル船舶及ニ附屬物ノ保險料ニ付テ

ノ債權

第十 船長又ハ船員ノ過失ニ因リテ積荷若

クハ旅客ノ旅荷物ヲ引渡サス又ハ之ニ損

害ヲ加ハタルヨリ生スル債權

第十一 船舶ノ衝突其他船長又ハ船員ノ過失ノ場合ニ於ケル損害賠償ニ付テノ債權

第十二 船舶登記簿ニ記入シタル債權但其

記入ノ日附ノ順序ニ從フ

第十三 右ノ外船舶ノ所有者又ハ賣却者ニ

對スル總テノ債權

同一號内ニ於ケル二人以上ノ債權者ハ同一

ノ割合ヲ以テ辨償ヲ受ク但第十二號ノ場合

ハ此限ニ在ラス

總テ各國法律ノ船客債權者即チ船舶債主ニ

與フルノ權利ニ種アリ一ハ法律上一定ノ順

序ヲ有スル特權ニハ明約ニ關セサル法律上

ノ船舶及其附屬品ニ係ル質主權(運貨ニ含有

スル下アリ)是レナリ此特權アルヤ債主ハ他

ノ債主ト同等ノ割合ヲ以テ辨償ヲ受ケス甲

ハ乙ニ先ツノ利益ヲ有ス是ヲ以テ全價額ヲ

以テ不足スル氏ハ乙ハ其辨償ノ全部若クハ

一部ヲ受ル能ハサル下アル可シ質主權ハ負

債主ヲシテ營ニ自己ノ財産ヲ以テ其責ニ當

ルヘキニ止マラス併セテ船舶等ヲ以テ債主

ノ要求ニ應スルノ義務アラシメ以テ其船舶

ハ他人ニ賣却シタル後ト雖モ猶ホ右ノ債主

ニ辨償スヘキノ具タルヲ免レス(佛國商法第

百九十條伊國商法第二百八十四條千八百七十九年白國商法第三條以下和蘭商法第三百十三條以下西國商法第五百九十六條以下獨國商法第七百五十七條以下「アツボツ」氏商法論第五百九十四條以下然レ此是レ債主ノ為ノ裁判處分上ノ賣却ヲ以テ船舶ノ代價ヲ分配シ要償ニ充ツハキ此ニ限ル何トナレハ若シ船舶ヲ用ヒスシテ其船舶所有者一己ノ財產ヲ以テ辨償シタルニ於テハ其船舶ノ現有者(買主)ニ對シ特權及質主權ヲ用ユルノ理ナケレハナリ若夫レ其船舶共有者ノ債主ニ辨償スヘキ一ニ係ルヤハ其共有者ノ股分ノ

ヲ以テ裁判處分上ノモノトシ其船舶全体ハ然ラス船舶債主ノ權利ヲ行フニハ船舶ノ全部或ハ其股分ヲ現有スルト否トニ關スルナシ船舶ハ右ノ點ニ付キ殆ント不動産ヲ以テ論セラル是レ要求權ノ種類ニ因リ運漕債ニモ責ヲ及ホスノ法律アル所以ナリ獨國商法第七百五十九條佛國商法第二百五十九條第七百六十條第百七十一條第百八十一條第百九十一條和蘭商法第三百九十一條第百九十九條第百五十一條千八百七十九年白國商法第六十三條第七十一條)抑モ運漕債ハ船舶

ノ收獲物ニ屬シ恰モ土地ノ收獲物ニ均シク
其物品ノ部分ト視ル英國ニ於テ質主權ヲ最
後航海ノ未收運漕賃ニ及ホスハ第一ニ契約
上ノ船舶質入ノ一ニ於テス然レ氏「マリキ
ムリー」ン(海上特權)ニ於テモ亦往々然ル「ア
ルハ佛國ニ於ルカ如シ」(アボット氏商法論第
二十三葉註解四十九及第四百九十四葉第五
百二十七葉以下)「ス」氏商法論第四百四十
八葉本葉ハ此點ニ就テ主トシテ獨國法ニ依
フ何トナレハ是レ自然ノ權宜ト法律上ノ論
理ニ最モ適スルヲ以テナリ佛國商法第二百
十六條ニ於テモ船舶所有者ハ其船舶及運漕

賃ヲ拋棄シテ船長ノ行為ヨリ生スル責任ヲ
免ル、モ「ト」ス
船舶債主ノ特權アルハ船舶ノ製造保存若ク
ハ其航海上ノ利益債主ノ金員或ハ勞働ニ基
キ他ノ債主ハ右ノ功德ナケレハ一モ得ル所
ナキモ「ト」ナレハ獨リ右ノ債主ニ特別ノ辨償
ヲ與フルヲ以テ權宜ニ協フモ「ト」スルニ出
ツ加之航海ノ利益ヲ汎ク發育スルノ理由ア
リ殊ニ第一號及第二號ニ記載セルモノハ國
庫ニ與フル普通ノ特權ナリ然レ氏第十號乃
至第十三號ノ如キハ普通ノ原則ヨリ起ルニ
非ス「ト」テ特別ノ理由ヨリ生スルモノナリ

第一號 本號ニハ裁判處分上ノ費用(裁判費用)ト他ノ費用トヲ問ハス(第一等ニ位スヘキ)トヲ定ム何トナレハ債主ノ要償ニ充ル貸方ハ必需ノ費用ヲ用ユルニ非サレハ之ヲ作ルコト能ハサルト勿論ナレハナリ是レ民法ノ主義ニモ適フ者ナリ(佛國民法第二千百一條ヨリ)第二千百五條ニ至ル(本號ハ裁判處分中ノ船舶ヲ保存監守スルノ費用ヲ以テ裁判費ト同視スルノ一點ニ於テ佛法ニ異ナリ)佛國商法第百九十一條ニハ之ヲ第三號ニ置クト雖モ此保存費ハ債主ヲシテ其要求スル所ヲ得セシメシメシト為メハ其必要裁判費用ニ讓

ラサルト明ナリ又雇賃ヲ支拂フトヲ得サルカ如キ場合ニ至ラシムヘカラサルナリ(獨國商法第七百五十七條)加之佛國商法第百九十一條第一號ノ說明(テラワール)第四冊第三十五號)ハ異論ヲ免レス

第二號 佛國商法第百九十一條第二號ニモ此規則アリ獨國商法ハ船舶ニ賦課スル稅ヲ第三號ニ記ス伊國商法第二百八十五條第二號千八百七十九年白國商法第四條第二號ハ佛法ニ同シ是レ航海上ノ利益ノ為メニスルモノニシテ港内ノ建築其他航海ノ用ニ供スル所ノ設備ノ保存新築ノ費用ハ主トシテ右

ノ稅ヲ以テ支辨セサルヲ得ス且港ヲ出入シ
テ燈臺ノ下ヲ通過スル船舶ノ之カ為メニ支
拂ヲ為スヘキハ理ノ然ラシムル所ナリ何ト
ナレハ是レ船舶ノ生存ニ關係アレハナリ
第三號 本號ノ規則ハ佛國商法第百九十一
條第三號乃至第五號伊國商法第百八十五
條第三號乃至第五號千八百七十九年白國商
法第四條第三號乃至第五號ニ記ス本號ノ右
諸法律ト異ナルハ此諸費用ヲ一號内ニ包括
シ其間ニ特權ノ等級ヲ居カサルニ在リ夫レ
此特權ノ等級ヲ置クノ理由ハ殆ント之ヲ見
ルト難ク諸要求皆ナ船舶及債主ノ為メニシ

其性質ヲ同シテスル供給ニ係リ且同一ノ時
期即チ最後航海ノ終ヨリ裁判處分ノ始ニ至
ルマテニ關スルナリ挽船トハ船舶ヲ無難ニ
海上ヨリ港内ノ定場ニ挽入レン為メ使用ス
ル船舶ヲ云フ是レ一ハ逆風暴雨等ノ為メ一
ハ船舶ニ損所アルカ為メニ必要トスルナリ
ル者ナリ水先ハ其緊要挽船ニ讓ラス故ニ水
先ニ之ヲ置ク然ルニ佛國法律ニハ稅ト同ク
之ヲ第二號ニ居クト雖モ水先使用義務廢止
以來ハ水先費用ヲ以テ稅ト同視スルト能ハ
ス水先營業タル尚ホ公任ニ係リ或ハ少クモ
公然ノ試驗ヲ經可キモノナリト雖モ之ヲ挽

船等ト同シク通常ノ海上營業ニ算ス
第四號 本號ニ屬スルモノハ最後ノ航海中
船舶ノ全部或ハ一部ヲ海難ヨリ救助スル為
メニ用ヒタル諸費用是レナリ若シ此費用ヲ
用ヒサルニ於テハ其船舶沈没スルモ知ルヘ
カラス故ニ其債主ハ其後ノ債主ノ為メ船舶
ニ必要ナル役務ヲ施シタル者ノ次ニ居クヲ
以テ權宜ヲ得タリトス海難ハ暴風其他ノ天
災或ハ敵ノ捕獲或ハ外國港ニ於テスル官ノ
差押ヨリ生スル者ナリ大海損ノ費用トハ船
舶或ハ積荷ノ一部ヲ助ケント欲シ他ノ部ニ
加ヘタル損失ヲ辨償セシメ為メニ其船舶及積

荷ノ負擔スヘキ共擔金ヲ云フ例ハ積荷ノ
一部ヲ海中ニ投棄シタリトセン歟總テ之ヨ
リ生スル損失ハ關係ノ諸人分擔セサルヘカ
ラス而シテ其投棄シタル積荷ノ所有者ハ船
舶ニ對シ相當ノ賠償ヲ要求スルノ權利ヲ得
又巡掠船ヨリ買戻シノ為メニ支拂フタル費
用海難ニ罹リタル船舶ヲ他船ヲ用ヒ或ハ岩
礁ヨリ救濟シタル為メニ用ヒタル費用或ハ
船員ノ拋棄タル船舶ヲ救取(救拾)スル為メニ
用ヒタル費用等亦タ右ニ同シ(獨國商法第七
百五十七條第五號及第六號千八百七十九年
白國商法第四條第六號「アボット」氏商法論第

五百二十七葉及第五百三十七葉佛國商法
於テハ水號ノ特權要求ヲ掲ケス

第五號 雇入契約ヨリ生スル船長及船員ノ
要求ニ特權ノ性質ヲ與フルハ各國法律皆

一ナリ佛國商法第百九十一條第六號白國千
八百七十九年商法第四條第七號伊國商法第

二百八十五條第六號獨國商法第七百五十七
條第四號アボツト氏商法論第四百八十九葉

英國千八百五十四年商船條例第百九十一條
和蘭商法第三百十三條第五號西國商法第五

百九十六條第六號其順序ニ至テハ異同アリ
ト雖モ船長船員ノ要求ハ裁判所分費用港内

費用ニ係ル要求ノ下ニ在リ他ノ債事取引ヨ
リ起ル所ノ要求ノ上ニ在ルハ各國法律皆十

一ナリ是レ海員ノ職業ヲ寵遇シ且其勤務ノ
缺ク可ラサル性質ヨリ生スル者ナリ其第四

號ノ債主ニ先ニスルヲ得サルハ當時若シ該
債主ノ救助アルニ非サレハ其船員又船舶ト

共ニ沈溺シタルモ知ルヘカラサレハナリ然
レ氏其要用ハ唯々最後ノ雇入契約ヨリ生シ

タルモノニ限ル何トナレハ水夫ノ給料ハ一
航海ヲ終リタル毎ニ支給スルヲ例トス之ヨ

リ長ク貸置クモ水夫自カラ其危嶮ニ當ラ
サルヲ得サレハナリ又何トナレハ船長ノ外

ナリ

ハ一航海ニ超ユル雇契約ヲ為サ、ルヲ通規
トシ假令ニ雇續ヲ為ス下頻々ナルモ心ス別
段ノ契約ト為シ此契約ヲ為シタルモ前契
約中ノ給料ハ既ニ支給シタルモト思料ス
ルヲ得レハナリ其他本號ニ屬スルモ、ハ特
リ眞ノ給料ノミナラス尚ホ自餘ノ要求モ雇
契約ニ起因スルモ、ハ皆ナリ例ハ滿期
ニ至ラサル解雇ノ辨償外國港ニ於テ解雇シ
タルモ、歸郷旅費等是ナリ然レモ契約ニ起
因セサル賞金等ハ(假令ニ習慣アルモ)此ニ屬
セス(「ベタリ」第一冊第七十一號「アラワール」
第四冊第四十五葉以下)而シテ是レ雇契約ノ

期限限月ナルアリ限年ナルアリ或ハ一航海
ニ止マルアリ或ハ給料ヲ確定スルアリ或ハ
利益高ノ配當ヲ為ス下アル等ノ為メニ區別
ヲ生スル下ナシ
自第六號至第七號 此三號ニハ船舶ノ需用
ノ為メ、取結ニタル債事取引タル點ト仍ホ
其取引ニ船舶ノ生存ヲ仰ク點トニ於テ互ニ
其義ヲ一ニスル所ノ三要求ヲ掲ク是ヲ以テ
此要求ハ石ノ性質ヲ有セサル他ノ要求ニ先
ンスルノ理由アリ何トナレハ是レ皆ナ諸債
主ノ利益ニ供セラルレハナリ其委曲ニ至テ
ハ説明ヲ加フヘキ下甚タ少ナシ

船長ハ擅ニ船舶ノ為メ負債ヲ起シ勞役ヲ約シ又ハ商品ヲ賣却スルヲ得ス唯々其止ムヲ得ス且猶豫ス可ラサルノ需求アル場合ニ限り然ルヲ得ルヲ論テ歎タス故ニ本號(第六號)ニ記スル船舶債主ノ要求權ヲ執行スルニハ右ノ理由ヲ證明セサルヘカラス佛國商法第九十二條第五號ニ於テハ乘組士官ノ會議筆記ト船長ノ計算書トヲ以テ右ノ證明ニ供セシム且船長ハ同法第二百三十四條ニ從テ此場合ニ於テ商事裁判所(外國港ニテハ領事)ノ許可ヲ受ルヲ要ス若シ船長航海中數港ニ於テ同一ノ負債ヲ續々起シタル時ハ後

ノ要求ハ先ノ要求ノ上ニ居クヲ習トス何トナレハ後ノ要求ハ併セテ先ノ債主ノ利益トナレハナリ(佛國商法第三百二十三條末文)アラワール(第四冊第五十三葉)アボツト(商法論第六百八葉)此場合ニ於テハ船長ノ船舶所有者若クハ股分所有者タルト否トノ為メニ區別アルコトナシ(レウ井ス氏第二冊第四百十九葉)其次ニ船舶ノ買主製造人及初回若クハ後日ノ機裝ニ係ル供給賣主ヲ記ス賣主ノ此權利ヲ有スルハ特リ佛國伊國及白國ノ法律ニ止マリ獨國及英國法ニ於テハ然ラズ且賣主特

權ノ効力總テ後日ニ及フヘキモノナルカ將
タ唯々發航前而已ニ涉ルヘキヤニ就テ疑問
ヲ免レス後者ノ場合ニ於テハ賣主ヲ製造人
ト同視シ若シ故障ヲ申立スシテ之ヲシテ出
航セシムルニハ製造人ト同シク其特權ヲ失
フ此意見甚タ便宜ニシテ且稍佛國高法第百
九十二條第八號ノ文語ニ適フモノ、如シ且
賣主ニ製造人ト同シク一モ特權ヲ與ヘサル
ノ法律亦タ少ナシトセス故ニ此特權ヲ擴張
シテ甚タシキニ至ルヘカラサルノ一點ニモ
注意セサルヘカラス佛國民法第百二十二條
第四項ニ依ルニ抑モ賣主ニ其賣價要求ノ為

メ其販賣シタル物品ニ對シ特權(差押權)ヲ與
ヘタルハ此點ニ變更ヲ生スルヲナシ何トナ
レハ右ノ場合ハ特權其物ニ係ルニ非スシテ
特別ノ特權ニ關スレハナリ
賣主及製造人ノ特權ハ船舶初メテ航海ニ就
クヤ直ニ消滅ス其後日航海ノ為ニスル修
繕、機裝等ニ係ル要求モ亦同シク其航海ニ就
クヤ輒々消滅ニ歸ス是以テ此特權ハ船舶
出航前ニ非サレハ施行スルヲ得ス賣主權
(差押權)ニ至テハ右兩場合ニ於テモ尚ホ存シ
惟々此債主特權ノ地位ヲ失フニ第百二十二號若
クハ第百二十三號ノ地位ニ於テ要求スルヲ得佛

國商法第百九十一條第八號ハ「既ニ航海シタル船舶ニ在テハ出航前ニトノ語ヲ以テ之ヲ予ス凡ソ航海ニハ商業ノ為メニ非サル航行ヲモ含有スルモノニシテ例ヘハ甲港ニ於テ之ヲ買ヒ乙港ヨリ出航セシメ之ニ移航スル時ハ此移航亦タ航海ト見做ス故ニ賣主等ハ之カ為メニ其特權ヲ失フヘシ然レ氏此問題ハ佛國法律學ニ於テ明解セサル所ナリ」
「アラワール」第四冊第五十八葉以下「アロー」
「イ」第五冊第千六百四十四號以下「ベダリ」
「ド」第一冊第九十一號以下
第八號ノ要求權ハ事實上ヨリ論スレハ船舶

製造人及其他船舶製造ノ為メニスル供給者ノ要求權ト同一ナリ然レ氏其要求權船舶製造人等ニ屬セシテ貸金或ハ代價ノ割拂ヲ以テ製造及機装ノ為メニ金員ヲ出シタル者ニ屬スル外形上ノ一點ニ至テハ右ト區別アリ而シテ貸金或ハ割拂ヲ為シタルハ他人ナルナリ又ハ後日ノ船舶所有者ナルナリ後日ノ場合ニ於テハ船舶ヲ之ニ引渡シタルヤ其特權固ヨリ消滅ス前者ノ場合ニ於テハ船舶製造人ト同シク初回ノ航海ニ就ク前ニ限リ其特權アルモノナリ此規則ハ唯タ千八百七十九年白國商法第四條第一號ニ記載ス

ルノミ(假令ニ完全ナラサルモ)然レ此要求
權ノ本號ニ屬ス可キハ論ヲ殊タス何トナレ
ハ船舶製造ノ為メ直接ニ勞役及物品ヲ供給
シタルト間接ニ金員ヲ出シタルトハ殆ント
區別スヘカラサレハナリ唯タ金員ヲ以テス
ルハ其關係ノ稍遠キ所ナルカ故ニ此特權ヲ
船舶製造等人特權ニ次テ記ス
第九號 船舶保險料ノ要求ニ特權アル諸國
法律ニ於テモ多ク許ス所ナリ(佛國商法第百
九十二條第十號千八百七十九年白國商法第
四條第十二號伊國商法第二百八十五年第十
號)每航海保險契約ヲ取結ヒタル時ハ其最後

ノ航海ヲ限トシ(一年等)ヲ定メタルキハ其
最後ノ保險料支拂期間ヲ限トシテ特權アリ
此特權アルハ航海ノ為メニ海上保險ノ緊要
ナルト其保險ノ自餘債主ノ利益(何トナレハ
物件沈没スルキハ債主ノ特權通例保險額ニ
轉スレハナリ)トナルカ故ナリ(本條第八百五
十八條)此ノ如キ船舶保險者ノ要求權ヲ本號
ニ居クハ保險ハ直接ニ船舶及航海ノ利用ヲ
為サス唯船舶所有權ノ損失ヲ辨償スルニ止
マレハナリ殊ニ下ノ兩號亦唯タ船舶債主ノ
賠償要求ニ係ルトニ着眼スレハ右ノ理由最
モ明ナリナルヘシ

第十號 佛國高法第百九十一條第十一號和
蘭高法第三百十三條第十號伊國高法第二百
八十五條第十一號白國千八百七十九年商法
第四條第十三號獨國高法第七百五十七條第
八號ニモ亦々規則アリ古日ノ法例ニ因レハ
積荷ハ船舶ノ責ニ當リ船舶ハ積荷ノ責ニ當
ル積荷及旅荷ニ係ル要求權ハ海上運漕契約
等ニ關スル規則ニ依テ判定ス可キナリ
第十一號 (獨國高法第七百五十七條第十號
白國千八百七十九年商法第四條第十四號凡
ソ衝突ハ船員ノ罪過ニ出ル諸般ノ海變(例ハ
ハ他ノ船舶若クハ端舟ヲ乘沈メル等)ノ一例

ト視ルヘシ此外ニ出ル契約上ノ義務履行ニ
係ル罪過ハ此ニ屬セス「アロゼ」第五冊第
千六百六十一號「アラワール」氏第四冊第八
二葉(ベダリト)第一冊第三百三十四號「レウ井
」第二冊第百五十葉ニ依レハ獨國法律ニ就
テ石ニ異ナルノ意見アリト雖モ其法律ノ文
語ニ適セス茲ニ述ル海變ハ甫テ近代ニ至リ
立法上ノモノトナリシカ故ニ佛國高法ノ如
キ古日ノ法律ニハ之ヲ記セス
第十二號 本號ニ屬スル債主ハ第一號乃至
第十一號ニ記セル諸特權債主ニ下ルモ一定
ノ法式ヲ立テ、與ハタル特權即チ近世ノ法